

2

Annual Report 2018

診 療 部

外来診療担当表
呼吸器内科
腎臓内科
脳神経内科
リウマチ・膠原病センター
糖尿病センター
消化器内視鏡センター
人工透析センター
循環器内科
外科
整形外科
脳神経外科・脳血管内科
心臓血管外科
皮膚科
小児科

泌尿器科
眼科
耳鼻咽喉科
放射線科
麻酔科
病理部
認知症疾患医療センター
歯科
健康増進センター
研修医の紹介
学会賞等受賞記念学術講演会
学会発表実績

外来診療担当表

◎は新患のみ、○は新患・再診、□は再診のみ
※2019年7月現在

科名	役職	氏名	月		火		水		木		金	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	呼吸器	副院長 診療部長			○	○					□	
		副部长	◎					○				
		医員					□					
		非常勤	□									
	内分泌	非常勤									□ 第4週	
		非常勤							□ 第2週			
	腎臓内科	副部长		◎						□		
		医員				□					○	□
	脳神経内科	副院長 診療部長	□		□		◎				□	
		非常勤							○ 隔週			
		非常勤			○							
	リウマチ 膠原病 センター	臨床研修・ 研究統括部長	○				○		○		□	
		センター長									□	
		部長	□				□		□			
		医員					□		□			
		医員	□								○	
		顧問			○						○	
		非常勤			○	□						
	糖尿病 センター	センター長	□		□		□		◎			
		副部长	◎				□		□		□	
		医員	□		□		◎				□	
		非常勤			◎						◎	
	消化器 内科	理事長				□						
		副院長 センター長		○							○	
診療部長						○		○				
副部长		○						○				
副部长				○		○						
医長										○		
医員				○								
非常勤		○										
眼科	非常勤				□ 隔週							
	副部长	○						○		○		
人工透析 センター	非常勤						○					
	副部长	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	医員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
循環器内科	非常勤	○	○			○	○			○	○	
	副院長 診療部長	◎				□		◎		□		
	部長 救急部長					◎		□			□ (不整脈)	
	副部长	□				□						
循環器内科	医長			□						□		
	非常勤			○						○		

科名	役職	氏名	月		火		水		木		金		
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
外科	病院長	碓 秀樹	○				○	○			□		
	副院長	佐々木伸文	□	□			□				○	○	
	診療部長	重政 有	○										
	部長	草場 隆史			○								
	副部長	國崎 真己							○				
	医長	稲益 英子	○	○								○	
	医員	片山 宏己								○			
	医員	山下真理子								○			
	医員	市川 宏美					□						
整形外科	診療部長	宮原 健次			○				○		○	(第2,4週)	
	手術部長	北原 博之	○					○			○	(第1,3,5週)	
脳神経外科	副院長	阪元政三郎	○				○				○		
	診療部長	竹本光一郎	○				○		◎ (専門)		○		
	医長	天本 宇昭	○				○				○		
脳血管内科	医員	中島 弘淳	○		◎ (専門)		○		◎ (専門)				
心臓血管外科	部長	谷口真一郎			○	◎			○				
	医長	嶋田 隆志			○				○				
	医員	宮永 竜弥			○				○				
小児科	診療部長	山田 克彦	慢性	循環器 第1,3,5週	○		○		アレルギー	アレルギー		慢性	
	部長	犬塚 幹	○	心身症	神経	神経 第1週休診	神経	神経	○	心身症		神経	
	当番医					予防接種						乳幼児健診	
泌尿器科	部長	徳永 亨介	○		□		○		□				
	非常勤	南 祐三					□	□					
	非常勤	丸田 耕一	□						□	□	□	□	
皮膚科	部長	山口 宣久	○		○		○		○		○		
耳鼻咽喉科	部長	大里 康雄	○		○		○	○	○		○		
	非常勤	担当医	○						○				
放射線科	副院長	平尾 幸一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	診療部長	堀上 謙作	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	部長	末吉 真	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	非常勤	山崎 拓也					放射線治療 計画	放射線治療 計画					
専門外来	インターフェロン	副院長	木下 昇		○								
		センター長											
	ペースメーカー	副院長	木崎 嘉久		○								
		診療部長			第2,4週								
	乳腺	部長	中尾功二郎		○								
		副院長	碓 秀樹						○				
	ストーマ	副院長	佐々木伸文	□	□			□				○	○
		診療部長	稲益 英子	○	○								
	禁煙	部長	草場 隆史					○					第2週
		非常勤	菅村 洋治			○	○						
	ステントグラフト	部長	谷口真一郎					○					
		担当医									◎		
心臓弁膜症外来	副院長	木崎 嘉久		◎									
	診療部長			第1週									
腹膜透析	部長	谷口真一郎		◎									
	副部長	中沢 将之								○			
睡眠時無呼吸外来	臨床研修・研究統括部長	植木 幸孝					□					第2週	
	センター長	井手 芳彦	○	○	○		○	○	○		◎		
健康増進センター	一般健診	センター長	中尾 治彦	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		健康管理部部长											
	医長	川内奈津美											
	医員	寺園 敏昭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
健診産婦人科	特別顧問	石丸 忠之	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

Dept. of Respiratory Medicine

呼吸器内科

肺や縦隔、胸壁の疾患の患者さんを対象に、診断および内科的な治療を行っています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



副院長・診療部長
副島 佳文
(そえじま よしふみ)

鹿児島大学 昭和58年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会総合内科専門医
日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医
がん治療認定医
日本医師会認定産業医
ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)



副部長
小林 奨
(こばやし つとむ)

長崎大学 平成11年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会総合内科専門医
ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)



医員
北御門 孝
(きたみかど たかし)

2019年4月就勤

長崎大学 平成29年卒

非常勤

荒木 智絵
(あらかき ちえ)

佐賀大学 平成20年卒
日本内科学会認定内科医
日本呼吸器学会専門医

診療内容

診療している主な疾患は以下のとおりです。

呼吸器感染症(急性気管支炎、肺炎、誤嚥性肺炎、肺化膿症、非結核性抗酸菌症、肺真菌症など)
慢性閉塞性肺疾患(肺気腫、慢性気管支炎など)
アレルギー・免疫疾患(気管支喘息、好酸球関連肺疾患、膠原病合併肺疾患、サルコイドーシスなど)
間質性肺疾患(間質性肺炎「肺線維症」、過敏性肺臓炎、塵肺など)

肺腫瘍(原発性肺がん、肺良性腫瘍、中皮腫など)
気管支拡張症
びまん性汎細気管支炎
慢性呼吸不全(在宅酸素療法など)
慢性咳嗽

診療実績

常勤の副島と小林、非常勤 荒木の三人で診療しています。副島は肺癌の化学療法が専門、小林は呼吸器感染症が専門、荒木は喘息が専門です。外来は副島が火曜日の午前、午後、金曜日の午前に診療を行い、小林が月曜日・木曜日の午前、荒木が月曜日の午前に診療を行っています。

入院患者さんの疾患構成は、2018年4月1日から2019年3月31日のDPCデータによると肺の悪性腫瘍206件、肺炎(誤嚥性肺炎含む)148件、間質性肺炎38件、抗酸菌関連疾患(肺結核以外)15件、喘息9件、胸壁腫瘍・胸膜腫瘍9件、肺・縦隔の感染、膿瘍形成8件、急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感

染症7件、結核6件、気道出血6件他でした。

呼吸器内科の主な検査は気管支鏡検査です。気管支鏡検査は水曜日の午後に行っています。末梢肺の小病変に対してはナビゲーションソフト、ガイドシース法を用いて診断率を上げるようにしています。また肺門、縦隔リンパ節腫大に対しては超音波気管支鏡下リンパ節生検(EBUS-TBNA)を行っています。腫瘍の発生させ

る自家蛍光を観察できる気管支鏡も備えていますので肺門部早期肺癌の診断も可能です。

院内活動に関しては、副島は化学療法レジメン審査を担当しており、小林は呼吸療法チームに属し、人工呼吸器装着患者の回診を毎週火曜日に行っています。

院外活動としては副島は佐世保市医師会が行っている肺癌検診のダブルチェックに参加しています。

■主な診療実績

(入院)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
入院延患者数	7,567名	8,202名	7,277名	7,869名	8,456名
実入院患者数	429名	490名	433名	478名	550名
退院患者数 (当科 / 全科)	430名 (6.75%)	481名 (7.22%)	434名 (6.5%)	483名 (7.23%)	536名 (7.86%)
平均在院日数	19.1日	18.7日	17.8日	17.3日	16.7日
気管支鏡症例数 (うちガイドシース法) (うちEBUS-TBNA)	127件 (62件) (6件)	146件 (79件) (7件)	123件 (82件) (5件)	123件 (73件) (7件)	135件 (86件) (6件)

(外来)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
外来新患者数	192名	174名	212名	186名	228名
外来再来患者数	2,671名	2,693名	2,975名	3,178名	3,759名

臨床研究

長崎大学第二内科と連携し以下の臨床試験、治験を行っています。

(臨床試験)

- ・成人市中発症肺炎における予後予測因子の探索(～2020年12月31日)

認定施設

日本呼吸器学会認定施設

日本呼吸器内視鏡学会認定施設

Dept. of nephrology

腎臓内科

腎疾患の発症から末期(透析)まで幅広く治療にあたっています。

診療担当医 ※2019年7月31日現在



副部長
中沢 将之
(なかざわ まさゆき)
2019年4月就勤

長崎大学 平成13年卒
透析専門医
総合内科専門医
臨床研修指導医



医員
明徳 尚基
(あけほ なおき)
2019年4月就勤

川崎医科大学 平成28年卒



非常勤
林 和歌
(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医 指導医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本腎臓学会専門医
日本透析医学会専門医



医長
上条 将史
(かみじょう まさふみ)
2019年3月退職
五島中央病院へ異動

産業医科大学 平成22年卒
日本内科学科認定内科医
日本腎臓学会専門医



医員
大塚 絵美子
(おおつか えみこ)
2019年3月退職
うへの病院へ異動

長崎大学 平成24年卒

診療内容

診療内容は大きく分けて次の4項目です。

診療している主な疾患

○慢性腎臓病(CKD)、とくに生活習慣病に関連した腎臓病の診療

慢性腎臓病のなかでも糖尿病・高血圧・脂質異常症など生活習慣病をとまなうものは、末期腎不全のみならず致命的な心血管病を発症しやすいことが知られています。

多くの慢性疾患と同じく腎臓病は末期になるまで症状がでません。検査の異常をそのままにしておくと、気付かないうちに進行してしまうことがあります。

血液検査や尿検査で異常が出て、健診で慢性腎臓病を指摘された時は、自覚症状がなくても早めに受診することが大切です。

当院では原疾患の治療、及び食事・生活指導などを多職種共同で包括的に行います。

また、かかりつけ医との連携も積極的に勧めています。

○腎炎、ネフローゼ症候群、他の全身病に関連した腎臓病の診療

慢性糸球体腎炎(血尿と軽度～中軽度の蛋白尿を伴い、ゆっくり腎不全になる病気)ネフローゼ症候群(多量の蛋白尿とむくみを伴う病気)急速進行性糸球体腎炎(数週～数か月で急速に腎不全に進行する病気)などは可能な限り腎生検による診断と治療方針の決定を行います。

適応があればステロイド治療を行い、重症あるいは難治性の場合は免疫抑制剤やアフェレーシスを追加します。

○慢性腎不全の診断、治療

慢性腎不全に対しては、食事療法、血圧コントロール、生活指導などを行います。

腎機能が低下するのを防ぎ透析導入までの期間を延長すること、心血管合併症の発症を予防することを目標に治療・管理を行います。

もし、腎機能が著しく低下した場合は透析療法を

行います。

できるだけ負担が少ないように、円滑に維持透析へ移行できるよう努めています。

導入後通院や福祉施設が必要な方は、導入前より専門スタッフにご相談ください。

また、腎移植が可能な場合は他の医療機関に紹介させていただきます。

診療実績

経皮的腎生検……………12例

診療体制

- ・新患 (月)PM……………中沢 (金)AM……………林
- ・再診 (木)PM……………中沢 (金)AM・PM……………林 (火)PM……………明穂

認定施設

日本透析医学会認定施設
日本腎臓学会研修施設

Dept. of Neurology

脳神経内科

パーキンソン病や多発性硬化症など神経難病の専門的診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



副院長・診療部長
竹尾 剛
(たけお こう)

長崎大学 昭和59年卒
医学博士
日本神経学会認定専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定産業医



非常勤
中村 龍文
(なかむら たつふみ)

長崎大学 昭和53年卒
長崎国際大学 人間社会学部 社会福祉学科 教授
日本内科学会認定医
日本神経学会専門医・指導医

非常勤
延原 幸嗣
(のぶはら こうじ)

2019年4月就勤
順天堂大学 昭和62年卒
医学博士
日本内科学会認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本神経学会専門医
日本脳卒中学会専門医

診療内容

頭痛、めまい、手足のしびれ・震え・脱力、歩行障害、意識障害などの診断と治療が専門です。

問診は特に重要で、症状の変化から病気の種類を推定します。発症してからピークに達するまでの時間により、病気の種類が予測できます。脳梗塞などの血管障害ならば数分以内に症状が完成することが多く、脊髄小脳変性症やパーキンソン病などの変性疾患では数年以上かけて徐々に悪化することが多いといったように、病気の種類によって、臨床経過が異なり、診断の上で、大きなヒントとなります。

次に、神経学的な診察を行い、病気の責任病巣の

場所を推定します。脳神経領域や運動系・感覚系、深部腱反射・病的反射などを系統的に診察し、どこに病変があるのかを絞り込みます。

このようにして、病気の種類と場所がわかれば、ほとんどの疾患を診断することができます。

上記で得られたベッドサイドの診断を裏付けるために、MRI・CTなどの画像診断や、神経伝導検査・筋電図・脳波などの生理検査、あるいは筋生検・神経生検といった病理検査などの、必要な検査を行って、確定診断に導き、治療に繋げて行きます。

診療実績

中村の外来診療は、新患・再来ともに、第1・3木曜日の午前中で、残りの月・火および金曜日の午前中は竹尾の再来、毎週水曜日の午前中は、竹尾の新患外来となっています。

常勤医は1名のため、オンコール体制は採用していませんが、緊急時には連絡可能な体制を採っています。

新患紹介の予約は地域医療連携センターで対応しています。

脳神経内科の特徴は、緊急を要する疾患が比較的少ないのに対し、難病や希少疾患が多いといった点が挙げられます。このため、一般内科に比べると、一人ひとりの診察に要する時間が長く、紹介していただいてから、

実際に診察に至るまでのタイム・ラグが長いといったご意見も開業医の先生方から伺いますが、上記のような特徴をご理解いただき、予約診療にご協力いただきたいと思いますと考えております。

また、難病の特性上、様々な身体機能障害を有する症例が多く、同じく白十字会に所属する耀光リハビリテーション病院と提携して、専門的な理学療法・作業療法のみならず、嚥下・言語障害や高次脳機能障害に対するリハビリテーションをシームレスに行うことを心がけています。

2011年には、日本神経学会より准教育施設に認定され、現在は研修医をはじめとした若手ドクターの教育にも、携わっています。

■主な診療実績(入院患者)

・脳血管障害	3名
・神経変性疾患	
パーキンソン病	12名
多系統委縮症	6名
その他のパーキンソニズム	2名
筋萎縮性側索硬化症	6名
不随意運動疾患	0名
進行性核上性麻痺	1名
脊髄小脳変性症	1名
・認知症性疾患	
レビー小体型認知症	2名
アルツハイマー型認知症	1名
その他認知症	0名
・末梢神経疾患(GBS,CIDPなど)	4名
・てんかん	10名
・自己免疫性中枢神経疾患(MS,NMO,脊髄炎など)	8名
・神経感染症(脳炎、髄膜炎HAMなど)	0名
・内科疾患・代謝性疾患に伴う神経障害	4名
・筋疾患(筋ジス・筋炎・MG)	6名
・脊髄疾患	2名
・頭痛	0名
・めまい	0名
・腫瘍	0名
・その他	
感染症(肺炎、尿路感染症など)	11名
悪性腫瘍	1名
整形外科的疾患	0名
精神疾患	1名
その他	0名

■臨床検査実施件数

・脳MRI・MRA	125件
・脊椎(頸椎・胸椎・腰椎)MRI	58件
・神経伝導検査	48件
・脳波	30件
・頭部CT	27件
・MIBG心筋シンチ	17件
・脳血流SPECT	19件
・脳(ダットスキャン)SPECT	17件
・頭頸部血管超音波検査	12件
・針筋電図	8件
・筋生検	5件
・針筋電図	8件

認定施設

日本神経学会認定准教育施設

Dept.of Arthritis and Lupus Center

リウマチ・膠原病センター

関連診療科と連携して全身的な診断・治療を実施しています。

診療担当医 ※2019年7月31日現在



常務理事
臨床研修・研究統括部長
植木 幸孝
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本透析医学会専門医・指導医
日本アフェレス学会認定専門医
九州リウマチ学会評議員



センター長
寺田 馨
(てらだ かおる)

長崎大学 昭和60年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医
日本リウマチ学会専門医



部長
荒牧 俊幸
(あらまき としゆき)

長崎大学 平成13年卒
医学博士
長崎大学臨床准教授
日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本リウマチ学会登録ソングラファー
九州リウマチ学会評議員



医員
來留島 章太
(くるしま しょうた)

長崎大学 平成26年卒
日本内科学会認定内科医



医員
内田 智久
(うちだ ともひさ)
2019年4月就勤

長崎大学 平成28年卒



顧問
江口 勝美
(えぐち かつみ)

長崎大学 昭和45年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本リウマチ学会専門医・指導医・登録医



非常勤
一瀬 邦弘
(いちのせ くにひろ)

長崎大学 平成12年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本腎臓学会専門医・指導医・評議員
日本医師会認定産業医
日本臨床免疫学会免疫療法認定医



非常勤
岩本 直樹
(いわもと なおき)

長崎大学 平成14年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
日本臨床免疫学会免疫療法認定医



医員
辻 良香
(つじ よしか)
2019年3月退職
長崎大学病院へ異動

長崎大学 平成24年卒
日本内科学会認定内科医



医員
小島 加奈子
(こじま かなこ)
2019年3月退職
嬉野医療センターへ異動

長崎大学 平成27年卒

診療内容

関節リウマチ、膠原病、および膠原病類縁疾患の患者さんを主な対象に、診断および内科的治療、さらにはよりよい治療法の開発に向けた研究活動を行っています。

診療している主な疾患は右記のとおりです。

＜リウマチ疾患＞関節リウマチ

＜膠原病＞全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、血管炎症候群など

＜膠原病類縁疾患＞ベーチェット病、シェーグレン症候群、リウマチ性多発筋痛症など

診療実績

関節リウマチをはじめとする膠原病は、日本リウマチ学会・アメリカリウマチ学会・ヨーロッパリウマチ学会の分類基準により行うのが標準となっていますが、鑑別すべき疾患が多く注意深く鑑別することが必要で、最初に診断ができなくても、経過観察を継続することで診断に至ることがあります。一般に経過が長く、増悪・寛解を繰り返すので、現時点だけではなく長期的な視野に立って治療を考える必要があり、患者さん自身の意見を尊重する必要があります。すなわち、予後と治療法の選択、治療の費用、副作用の情報を適切に伝え、患者さん自身の意向を勘案しながら治療法を選択する必要があります。また、疾患あるいは治療薬に関係する合併症も多くみられます。

従って、リウマチ・膠原病センターでは、以下の点を診療科の目標としています。

- ① 診断および治療の適用・開始を的確に行う。
- ② 治療効果の判定、経過観察を適切に行う。
- ③ 疾患あるいは治療薬に関係する合併症の出現に注意し、出現時は、速やかに適切に対処する。
- ④ スタッフ（看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・ソーシャルワーカー・事務職など）と協力し、日常生活上の注意、物理・作業療法、社会福祉的な支援（特定疾患・身体障害者・介護保険の申請など）を行う。

特に、関節リウマチは近年、画期的な治療である生物学的製剤の登場で治療法が大きく変わっています。しかし、基礎疾患のため使用できない場合、生物学的製

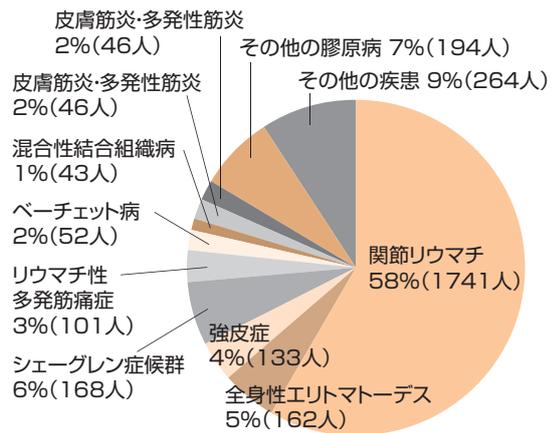
剤を使用しても十分な効果が出ない場合、生物学的製剤の副作用のため使用継続が困難である場合、生物学的製剤が高額のため経済的に使用できない場合などがあり、本当の意味で画期的とはいえない状態です。従って、生物学的製剤およびそれ以外の治療法の適応方法・開発が期待されます。今後もリウマチ膠原病疾患を中心に、佐世保市・県北の医療に貢献していきたいと思っております。

■ 診断内訳

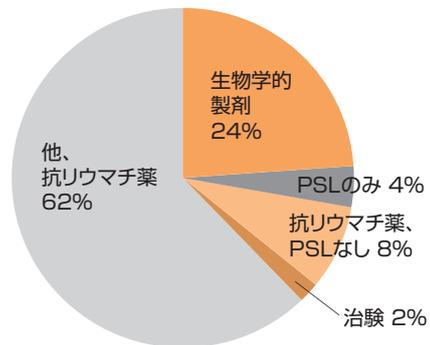
当リウマチ・膠原病センターは約3,000名のリウマチ・膠原病の患者さんを専門外来で診療しています。新患は年間約580名で、佐世保市などの長崎県北部のみならず、島原など県南部や、県外からも紹介を受けています。最近では、関節リウマチの診断・治療が急速に進み、早期リウマチの患者さんの紹介が急増しています。さらに2003年から導入された生物学的製剤により、リウマチの治療は痛みを抑える時代から、その進行を抑える時代、そして進行を止め、場合によっては関節破壊を修復するような激動の時代に突入しています。

当院では、全リウマチ患者さんの約24%に生物学的製剤を使用しています。遠方からたくさんの患者さんが当院を受診されているため、地域の先生方と県北リウマチネットワーク（ララサークル）を作り、リウマチの地域連携をすすめています。

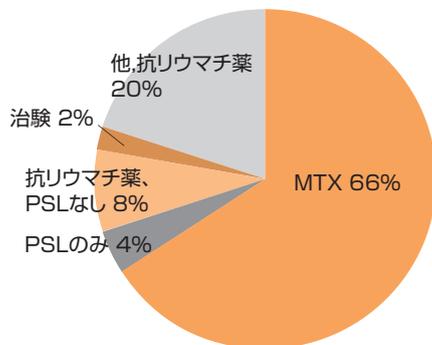
■診断内訳 2019年3月統計(N=2,978)



■生物学的製剤使用状況 (関節リウマチ患者=1,741人)



■MTX使用状況 (関節リウマチ患者=1,741人)



認定施設

日本リウマチ学会認定教育施設

Dept. of Diabetes Center

糖尿病センター

糖尿病患者の自己管理を専門チームが支援しています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在センター長
松本 一成
(まつもと かずなり)長崎大学 昭和62年卒
医学博士
日本糖尿病学会専門医・指導医
日本内科学会認定内科医・指導医
生涯学習開発財団認定コーチ副部長
厨 源平
(くりや げんぺい)
2019年4月就勤長崎大学 平成14年卒
医学博士
総合内科専門医
認定内科医
日本糖尿病学会専門医
日本糖尿病学会研修指導医
緩和ケア研修会修了医員
渡部 太郎
(わたのべ たろう)
2019年4月就勤長崎大学 平成26年卒
認定内科医
TNT修了
日本医師会認定産業医
緩和ケア修了

非常勤

魚谷 茂雄
(うおたに しげお)

長崎大学 昭和63年卒

医員

明島 淳也
(あけしま じゅんや)2019年3月退職
長崎済生会病院へ異動
帝京大学 平成24年卒
日本内科学会認定内科医医員
笹村 明香里
(ささむら あかり)2019年3月退職
長崎医療センターへ異動

長崎大学 平成27年卒

診療内容

かかりつけ医から紹介された患者さんや、健康診断で糖尿病が疑われた患者さん(メタボリックシンドロームも含む)、あるいは糖尿病そのものや合併症がコントロールできていない患者さんなどを対象にしています。糖尿病の診断、食事療法・運動療法を実行するための支援、糖尿病薬やインスリンによる治療、合併症の管理など、糖尿病専門機関でしかできないような診療を行っています。そして、一方がかかりつけ医と地域連携システムを構築し、地域連携パス「佐世保ブルーサークル」を運用しています。ここでは患者さんは、通常の治療はかかりつけ医で行い、専門的な教育や検査は専門施設である

当院で行うことになり、医療資源を最大限に生かす有用な方法です。

糖尿病の理想的な治療は、できるだけ正常に近くなるように血糖値をコントロールして合併症を防止することです。そのためには、患者さん自身による「自己管理」が大切です。当院では、患者さんの自己管理を支援するために専門チームを結成し、「教育入院(2週間)」、「検査入院(1泊2日)」、「腎症教育入院(4泊5日)」、「栄養看護外来」の4つのコースを運営しています。なかでも教育入院の成績は大変良好であり、退院後多くの患者がHbA1c (NGSP値) 7%未満を達成されています。

診療実績

糖尿病センターでは毎月およそ1400名の糖尿病患者さんを専門外来にて診療し、年間およそ100名の糖尿病教育入院に携わっています。新患は年間およそ300例で、長崎県内では最も充実した糖尿病学会認

定教育施設です。常勤医は松本医師・厨医師・渡部医師の3名です。看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師など専門性の高いメディカルスタッフも大いに活躍しており、大変すばらしいチーム医療

が実践されています。例えば、看護師は糖尿病性壊疽を未然に予防する「フットケア」の実践を行っています。また、管理栄養士も毎日栄養指導を行っています。医師、看護師、管理栄養士による「透析予防指導」にも取り組んでいます。診療のみならず学術的な分野でも毎年、学会や論文など多くの糖尿病診療に関する重要な知見を継続して発表しています。その分野は多岐にわたっており、糖尿病療養指導、腎症、動脈硬化、コーチングなど幅広い発表内容になっています。

「共感的に患者さんの言葉を傾聴する」、「わかるま

で繰り返し情報提供を続ける」、「どうなりたいのか具体的に質問する」、当たり前のことと思われがちですが、実際にできている施設は少ないと思います。患者さんの自主性を支援することをエンパワメントといいますが、このことを実践するために、糖尿病の基礎知識や最新の情報を整理して患者さんに理解しやすい資料を作成しています。また、医療者と患者さんの双方向性のコミュニケーションを促進するためのコーチングにも磨きをかけています。

■糖尿病教室

- 月・渡部／管理栄養士
- 火・管理栄養士 理学療法士
- 水・松本／管理栄養士
- 木・管理栄養士 看護師
- 金・厨／管理栄養士 臨床検査技師

■主な診療実績

2018年度新患者数	308名
月平均受診者数	829名
平均HbA1c	7.5%

■クリニカルインディケータ（薬物療法患者対象）

2018年4月～2019年3月

		第1四半期 (4・5・6月)	第2四半期 (7・8・9月)	第3四半期 (10・11・12月)	第4四半期 (1・2・3月)	年間
2018年度		31.3%	36.4%	36.3%	26.1%	31.2%
	HbA1c7.0未満の患者数	289	357	363	251	488
	薬物治療患者数	924	982	1001	962	1,566

認定施設

日本糖尿病学会教育施設

Dept. of Gastroenterological Endoscopy

消化器内視鏡センター

がんの早期発見・早期治療に威力を発揮しています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



副院長・センター長
木下 昇
(きのした のぼる)

長崎大学 昭和 57年卒
医学博士
日本内科学会認定医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器内視鏡学会九州支部評議員
日本感染症学会ICD(インフェクションコントロールドクター)



診療部長
小田 英俊
(おだ ひでとし)

長崎大学 昭和62年卒
医学博士
日本内科学会認定医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医



副部長
加茂 泰広
(かも やすひろ)

長崎大学 平成17年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本肝臓学会認定肝臓専門医



副部長
吉村 映美
(よしむら えみ)

長崎大学 平成17年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓病学会専門医



医長
高木 裕子
(たかき ひろこ)

藤田保健衛生大学 平成18年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓病学会専門医



医員
石田 智士
(いしだ さとし)
2019年4月就勤

長崎大学 平成28年卒



医員
佐藤 航平
(さとう こうへい)

2019年3月退職
佐世保市総合医療センターへ異動

長崎大学 平成27年卒
日本内科学会認定内科医

診療内容

全機種ハイビジョン対応の上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡を用いて、消化管(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、S状結腸、直腸)と胆嚢、胆管、膵臓に疾患をもつ患者さんのスクリーニング検査と診断および内視鏡的治療を行っています。主な内視鏡的治療は以下のとおりです。

- ・全消化管に対する内視鏡的止血術
- ・食道静脈瘤に対する結紮術
- ・早期食道がんおよび早期胃がんに対するESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)

- ・大腸ポリープ、早期大腸がんに対するESDおよびEMR(内視鏡的ポリープ切除術)
- ・上部消化管狭窄や胆道悪性腫瘍に対する拡張術胃瘻造設術
- ・異物除去
- ・閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆道ドレナージ術
- ・内視鏡的総胆管結石除去術

肝臓病では、ウイルス性肝炎の診断及びインターフェロンフリーを中心とした治療、肝細胞がんに対する超音波下、腹腔鏡下ラジオ波焼灼療法及びエタノール局注療法を行っています。

診療実績

食道、胃、十二指腸に対する上部消化管検査は、年間5,429件(2018年度実績)実施し、うち574件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

小腸、大腸、S状結腸、直腸に対する下部消化管検査は、年間1,676件(2018年度実績)実施し、うち約483件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

当院は佐世保市指定二次救急輪番病院であり、年間を通して、昼夜を問わず消化管出血などの患者さん

が搬送されてきます。当科では、チーム内でオンコール体制をとり、緊急の症例にも対応しています。

近年の内視鏡による診断・治療手技の飛躍的な進歩により、胃がんや大腸がんは、早期がんの段階で発見できれば、治療することによりほぼ100%完治できるようになっています。異常を自覚したり、健康診断で精密検査を進められた方は、躊躇されることなくできるだけ早いうちに当科を受診されることをおすすめします。

■主な診療実績

上部消化管内視鏡検査	5,429件
下部消化管内視鏡検査	1,676件
上部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	60件
下部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	57件
上部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	12件
下部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	381件
内視鏡的止血術	135件
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	6件
内視鏡的拡張術	52件

内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)	19件
内視鏡的胆道治療(ERBD/EST)	324件
超音波内視鏡検査(EUS)	207件
内視鏡的異物除去術	11件
肝生検	25件
ラジオ波焼灼療法(RFA)肝生検	17件
インターフェロンフリー治療導入	16件
B型肝炎核酸アナログ導入	10件

認定施設

- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設

Dept. of artificial dialysis Center

人工透析センター

血液浄化療法を導入し、免疫性疾患の治療にも対応しています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



常務理事
臨床研修・研究統括部長
植木 幸孝
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本リウマチ学会認定医・専門医・指導医・評議員
日本透析医学会専門医・指導医
日本アフェレンス学会認定専門医
九州リウマチ学会評議員



副部長
中沢 将之
(なかざわ まさゆき)
2019年4月就勤

長崎大学 平成13年卒
透析専門医
総合内科専門医
臨床研修指導医



医員
明穂 尚基
(あけほ なおき)
2019年4月就勤

川崎医科大学 平成28年卒



非常勤
林 和歌
(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医・専門医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本腎臓学会腎臓専門医
日本透析医学会専門医



医長
上条 将史
(かみじょう まさふみ)
2019年3月退職
五島中央病院へ異動

産業医科大学 平成22年卒
日本内科学科認定内科医
日本腎臓学会専門医



医員
大塚 絵美子
(おおつか えみこ)
2019年3月退職
うへの病院へ異動

長崎大学 平成24年卒

診療内容

腎臓疾患や自己免疫疾患などの患者さんを主な対象に、専門的な診断および血液透析や血漿交換など、血液浄化装置を用いて各種専門治療を行っています。診療している主な疾患は次のとおりです。

〈腎臓疾患〉

ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、腎性高血圧、糖尿病性腎症、
膠原病に伴う腎障害、急性腎障害、慢性腎臓病など

〈自己免疫疾患〉

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、血管炎、潰瘍性大腸炎など

診療実績

常時85人以上の維持透析を行い、また、透析導入やあらゆる急性血液浄化療法にも対応しています。

2017年度に全国で維持透析導入された患者数は40,900人を超え、また維持透析患者数も334,000人を

超えました。また、導入時平均年齢は男性が68.9歳、女性は71.4歳、全体の平均年齢は69.6歳、当院においても男性60.8歳、女性70.0歳、全体では62.5歳と導入患者さんの高齢化が進んでいます。また、20年以上透析

患者数は全国で26,669人と、全透析患者の中の8.3%を占め、長期透析患者さんの増加傾向が明らかとなっています。

透析患者さんの高齢化、維持透析の長期化に伴い、アミロイドーシスや透析性骨症といった透析患者さん特有の合併症に加え、脳血管障害、心血管障害、悪性腫瘍などの多岐にわたる合併症を有する患者さんが増加し、それらの診断、治療も重要な位置を占めるようになりました。人工透析センターは、さまざまな科を有する

総合病院で行う透析の利点を生かし、専門の他科と連携して、急性期治療が必要な合併症を持つ透析患者さんを受け入れています。脳血管障害や心血管障害、術後などでCHDFを施行した回数は2017年度147回、2018年度193回、膠原病や肝疾患、消化器疾患を対象とした血漿交換やLCAP等の特殊血液浄化療法の施行もそれぞれ96回、57回と急性期の血液浄化療法も積極的に行っています。

■主な診療実績

- ・維持透析患者数 86人
2019年3月31日現在
- ・維持透析導入患者
(急性腎不全、術後一時的導入を除く)
2017年度 22人
2018年度 9人

- ・特殊血液浄化療法施行回数
(2017年4月1日～2019年3月31日)延べ回数

	2017年度	2018年度
LCAP	10	0
GCAP	10	19
血漿交換 他	61	26
エンドトキシン吸着	15	12
CHDF	147	193

認定施設

日本透析医学会認定施設

Dept. of Cardiology

循環器内科

急性心筋梗塞をはじめ循環器疾患にオンコール体制で365日・24時間対応しています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



副院長・診療部長
入退院支援センター長
木崎 嘉久
(きざき よしひさ)

長崎大学 昭和59年卒
日本内科学会認定内科医・認定総合内科医・指導医
日本循環器学会認定専門医
日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医
同九州地方会運営委員
日本高血圧学会専門医・指導医
日本医師会認定産業医
長崎県急性心筋梗塞検討委員会 委員



部長・救急部部长
中尾 功二郎
(なかお こうじろう)

長崎大学 平成2年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医
日本循環器学会認定専門医
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医



副部長
富地 洋一
(とみち よういち)

2019年4月就勤

鹿児島大学 平成14年卒
循環器内科専門医
認定内科医
日本心血管インターベンション治療学会認定医
臨床研修医指導医



医長
落合 朋子
(おちあ い ともこ)

長崎大学 平成20年卒
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本心血管インターベンション治療学会認定医
日本循環器学会認定専門医



非常勤
矢野 捷介
(やの かつすけ)

長崎大学 昭和41年卒
医学博士
長崎国際大学 健康管理学部客員教授
長崎大学医学部名誉教授
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医
日本循環器学会認定専門医・日本内科学会認定内科医
介護老人保健施設長寿苑顧問



医員
吉村 聡志
(よしむら さとし)

2019年3月退職

長崎大学 平成24年卒
日本内科学会認定内科医
日本救急学会ICLSインストラクター
JATEC-FCCSプロバイダー
日本化学療法学会抗微生物療法認定医

診療内容

狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、高血圧症、不整脈など、心臓疾患や循環器疾患を対象に、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査（緊急対応可）や64列MDCT（マルチスライスCT）を使用して、冠動脈、大血管などの評価、心臓核医学検査など専門的な診断および治療を行っています。急性心筋梗塞には常時オンコール体制で365日・24時間対応しています。診療している主な疾患は次のとおりです。

- 〈虚血性心疾患〉急性心筋梗塞、狭心症 など
- 〈高血圧症〉本態性高血圧症、二次性高血圧症 など
- 〈不整脈〉頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、心房細動 など
- 〈心臓弁膜疾患〉僧帽弁膜症、大動脈弁膜症や先天性心疾患 など
- 〈心臓心筋疾患〉心膜炎、心筋炎、心筋症 など
- 〈血管疾患〉大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症 など

診療実績

外来診療は平日午前中に新患、再来各1名で行い、専門外来としてペースメーカー外来を第2および第4月曜午後に実施しています。平日午後には血管イン

ターベンション加療(PCI)やカテーテルアブレーション加療(ABL)などの各種検査と治療を中心に診療しています。新患紹介や冠動脈CTA検査などの予約は連携せ

ンターで対応しており、また、メディカルネット99からの直接予約も可能となっています。

救急受入れは、平日日勤帯は常時対応しています。時間外は内科系当直の対応となりますが、急性心筋梗塞や重症心不全症例など緊急治療を要する場合は、循環器内科当番医(オンコール)で加療しています。緊急心臓カテーテル検査も24時間常時実施可能です。

カテーテルアブレーションに対する機器を更新して心房細動への治療にも取り組んでいます。

心臓リハビリテーション指導士による運動療法やPCIや末梢血管形成術(PTA・PTR)、不整脈加療としてペースメーカー加療、ABL、心臓再同期療法(CRT)と難治性・致死性不整脈疾患へ植込み型除細動器(ICD)、両者を併せた両室ペーシング機能付除細動(CRT-D)治療、他に大動脈内バルーンポンプ(IABP)や経皮経管的心肺補助システム(PCPS)による補助循環システムを利用した加療を実施しています。多科連携での血管内カテーテル治療となる大動脈STENT.graft留置(EVAR・TEVAR)、頸動脈狭窄へのSTENT加療(CAS)なども施設基準制定を受けて加療を行っています。

地域医療連携の一環としてAMI・PCI地域連携パスを2006年5月より稼働、2018年3月までに地域医療機関95施設(病院14、医院・診療所81施設)との間で、延べ403症例で運用しています。

2018年11月より心不全地域連携パスを開始しています。高齢者の心不全症例が増加しており、疾患管理として日常生活への注意点のみならず、介護支援や退院後訪問を取り入れています。

■主な診療実績 2018年(1/1-12/31)

心エコー図検査	3,225例
心臓カテーテル検査	426例
大動脈CT	402例
心臓CT(冠動脈CTA)	276例
心血管インターベンション加療	129例
体内式ペースメーカー植込み(CRT・ICD含む)	57例
末梢血管インターベンション加療	18例
心筋シンチ	7例
年間入院数	526名

(うち急性心筋梗塞58名)

■循環器関連機器

心エコー図装置	4台
Toshiba社製 Aplio	
GE社製 vivid i	GE社製 vivid E9
64列 MDCT	1台
PHILIPS社製 Brilliance64	
血管造影装置	2台
PHILIPS社製 Allura Clarity FD 20/20	
Toshiba社製 Infinix Celeve-i	
冠動脈血管内超音波装置	1台
VOLCANO社製	
VOLCANO S5 Imaging system	
負荷 ECG装置	
エルゴメータ1台	トレッドミル1台 CPX
ホルター解析装置	1台
フクダ電子 SCM-8000	
RI装置	1台
MRI	1.5T 1台
	3.0T 1台(心血管 MRA対応可)

認定施設

- ・日本循環器学会認定教育施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設
- ・日本高血圧学会認定研修施設
- ・両心室再同期療法・植込み型除細動器治療(CRT-D)実施認定施設
- ・胸部-腹部大動脈STENT留置(EVAR・TEVAR)
- ・心大血管疾患リハビリテーション認定(I)

施設対応

- ・Medtronic製MRI対応型ペースメーカー植込み患者MRI検査施設

Dept. of Surgery

外科

専門医による高度の医療を提供する体制を整備。患者さんのQOLを重視した縮小手術も積極的に実施しています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



理事
病院長
碓 秀樹
(いかり ひでき)

長崎大学 昭和58年卒
医学博士
日本外科学会 外科専門医
日本消化器外科学会 消化器外科認定医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本医療マネジメント学会評議員
緩和ケア研修会修了



臨床検査部長
梶原 啓司
(かじはら けいじ)

徳島大学 昭和55年卒
医学博士
日本外科学会 外科専門医・指導医
日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
日本消化管学会 胃腸科認定医
緩和ケア研修会修了



副院長兼
呼吸器外科診療部長
佐々木 伸文
(ささき のぶひこ)

宮崎大学 昭和62年卒
医学博士
日本外科学会 外科専門医
日本胸部外科学会 認定医
日本消化器外科学会 消化器外科認定医
日本乳癌学会 認定医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
緩和ケア研修会修了



部長
重政 有
(しげまさ ゆう)

防衛医科大学 平成2年卒
医学博士
日本外科学会 外科認定医・専門医・指導医
日本消化器外科学会 消化器外科認定医・専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
日本肝臓胆膵外科学会 高度技術名誉指導医・評議員
大腸肛門病学会 九州地方会評議員
緩和ケア研修会修了



部長
草場 隆史
(くさば たかふみ)

長崎大学 平成9年卒
医学博士
日本外科学会 外科認定医・専門医
日本消化器外科学会 消化器外科専門医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
緩和ケア研修会修了



副部長
國崎 真己
(くにざき まさき)

三重大学 平成10年卒
日本食道学会 食道科認定医
日本内視鏡外科学会 技術認定医(胃)
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本外科学会 外科専門医・指導医
日本消化管学会 胃腸科認定医・専門医・指導医
日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
緩和ケア研修会修了



医長
稲益 英子
(いなます えいこ)
2019年4月就勤

長崎大学医学部 平成18年卒
外科専門医
日本乳癌学会 認定医
日本乳癌学会 乳腺専門医



医員
鍔尾 智幸
(つお ともゆき)

長崎大学 平成22年卒
日本外科学会 外科専門医
緩和ケア研修会修了



医員
小山 正三郎
(おやま しょうさぶろう)
2019年4月就勤

長崎大学 平成22年卒
日本外科学会 外科専門医



医員
片山 宏己
(かたやま ひろき)
2019年4月就勤

長崎大学 平成25年卒



医員
山下 真理子
(やました まりこ)
2019年4月就勤

長崎大学 平成26年卒



医員
市川 宏美
(いちかわ ひろみ)
2019年4月就勤

長崎大学 平成29年卒
検診マンモグラフィ読影認定医
緩和ケア研修会修了



非常勤
菅村 洋治
(すがむら ようじ)

新潟大学 昭和42年卒
日本外科学会 外科専門医
日本消化器外科学会 消化器外科認定医



名誉顧問
國崎 忠臣
(くにざき ただちか)
2019年3月退職

長崎大学 昭和41年卒
医学博士
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
日本緩和医療学会 暫定指導医
緩和ケア研修会修了



医員
森 くるみ
(もり くるみ)
2019年3月退職
白十字病院へ異動

長崎大学 平成24年卒
日本外科学会 外科専門医
緩和ケア研修会修了



医員
丸山 圭三郎
(まるやま けいざぶろう)
2019年3月退職
諫早総合病院へ異動

長崎大学 平成25年卒
日本外科学会 外科専門医
緩和ケア研修会修了

診療内容

現在10名のスタッフで、あらゆる分野の専門医を取得し、認定施設や若い臨床医の研修・育成の場としての基準を満たしています。

診療面では、専門医による高度の医療を提供するため、肝胆膵外科、消化器・一般外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科の4つのユニットに分け、それぞれ中心となる担当医を決めて、高度で安全な医療を目指しています。

治療対象の多くはがんなどの悪性疾患で、早期の症例に対しては、QOLを重視した機能温存・縮小手術を、進行がんには手術に化学療法、温熱療法、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。進行がんに対してはdown stagingによる予後の改善を目的とした術前化学療法(NAC)を行う症例が増加しています。

近年、低侵襲手術に重点が置かれるようになり、内視鏡手術や鏡視下手術が増加の傾向にあります。当科における鏡視下手術は1991年という早期に導入し、現在は胆石症などの良性疾患に対しては積極的に腹腔鏡下手術を行い、大腸がんに対しては症例を選択しながら、腹腔鏡下ないし腹腔鏡補助下手術を行っていま

す。胸腔鏡下手術は、自然気胸、肺がんや縦隔腫瘍などに対して年間約50例を行っています。自然気胸の患者さんに対しては、術後再発率0%を目標に治療を行っており、それに近い実績をあげています。

年々増加する乳がんに対しては、整容性を重視した乳房温存手術を目指しています。また全摘が必要な症例においては、症例を選んで一次的乳房再建術を行っています。

専門外来として、乳腺外来、ストーマ外来、禁煙外来を午後の時間帯に開設して、患者さんのニーズにこたえています。

研究面では、赤外観察カメラシステム(Photodynamic Eye, PDE)を導入し、乳がん・胃がん・大腸がんを中心にICGの蛍光特性を利用したnavigation surgeryを開始しています。また全国学会をはじめ、各種学会において、研究報告や症例報告を別記のように発表しました。

毎週月曜日に病理、放射線科と合同で抄読会を行い、毎週月・木曜日に術前検討会を、毎週木曜日に消化器内科医を交えて術後検討会を行っています。また毎月1回手術標本の病理検討会を病理医指導の下で行っています。

診療実績

当院は救急告示病院で、佐世保市の二次輪番救急指定病院でもあり、緊急患者に対しては24時間対応

で行っており、2018年度は2,510台の救急車を収容し、113例の外科緊急手術を施行しました。

■主な診療実績

－手術症例数－

手術総数 651 (全身麻酔536、腰椎麻酔11、局所麻酔103)					
(1)乳腺腫瘍 ・乳がん ・その他(葉状腫瘍等)	90例 85例 5例	(5)胃腫瘍 (内 腹腔鏡下手術 32例) ・胃がん	42例 38例	(11)胆石症 (内 腹腔鏡下手術 68例)	74例
(2)甲状腺腫瘍 ・甲状腺癌 ・その他	4例 2例 2例	(6)胃十二指腸疾患 (7)小腸疾患 ・イレウス	4例 28例 19例	(12)虫垂炎 (内 腹腔鏡下手術 32例)	35例
(3)呼吸器 (内 胸腔鏡下手術 56例)	57例	(8)大腸腫瘍 (内 腹腔鏡下手術 55例)	75例	(13)胆嚢腫瘍	3例
①肺がん	25例	・結腸癌	49例	・原発性	2例
②肺良性腫瘍	3例	・直腸癌	26例	・転移性	3例
③気胸	11例	(9)大腸良性疾患(穿孔)	8例	(15)臍腫瘍	2例
④膿胸	10例	(10)ヘルニア (内 腹腔鏡下手術 54例)	64例	(16)胆管腫瘍	1例
⑤その他	8例	・鼠径	57例	(17)肛門疾患	3例
(4)食道疾患 ・食道がん ・食道憩室	3例 2例 1例	・腹壁	5例		
		・臍	2例		
(内)緊急手術113(全身麻酔104、腰椎麻酔2、局所麻酔7)					
・急性虫垂炎	24例	・気胸、膿胸	12例	・下部消化管穿孔	11例
・腸閉塞	16例	・大腸がん	2例	・胆石、胆のう炎	18例
・ヘルニア嵌頓	3例	・上部消化管穿孔	2例	・その他	25例

認定施設

- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本胸部外科学会専門医制度関連施設
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本乳癌学会関連施設
- ・日本がん治療認定研修施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設

Dept.of Orthopaedic surgery

整形外科

運動器のけがや病気を治療しています。特に関節鏡を用いた手術を沢山行っています。

診療担当医 ※2019年7月31日現在



診療部長・手術部部長
宮原 健次
(みやはら けんじ)

長崎大学 昭和58年卒
医学博士
日本整形外科学会 整形外科専門医
日本整形外科学会 リウマチ医
身体障害者法 長崎県指定医



部長
北原 博之
(きたはら ひろゆき)

福岡大学 平成2年卒
医学博士
日本整形外科学会 整形外科専門医
日本整形外科学会 スポーツ専門医
日本体育協会 スポーツ専門医
身体障害者法 長崎県指定医

診療内容

H26年6月より10年ぶりに整形外科が復活して、5年が経ちました。

整形外科医は常勤2名体制で外来業務や入院手術業務を行っています。救急も可能な範囲で対応しています。手術症例も毎年ほぼ400例前後で推移しています。去年は500例近くを手術しました。

佐世保市も南部だけではなく中心部から北部にかけて、さらに北松地区や西彼杉半島、佐賀県西部からも患者さんが来られるようになってきました。

当院の特徴としては骨折などの外傷以外にも、関節外科とくに関節鏡視下の手術が多く、肩関節においては佐世保市有数の病院になってきました。

また膝の関節鏡視下の手術や骨切り術、膝や股関節の人工関節置換術、靭帯の再建術や腱の手術なども行っています。さらに当院に多い糖尿病やリウマチの患者さんの骨折などの外傷や関節や腱の手術などに対応しています。

手術内容の内訳につきましては、次項をご覧ください。

診療実績

2014年6月～2015年3月(10か月)の全手術症例:312例
2015年4月～2016年3月(1年)の全手術症例:423例
2016年4月～2017年3月(1年)の全手術症例:401例
2017年4月～2018年3月(1年)の全手術症例:399例
2018年4月～2019年3月(1年)の全手術症例:471例

<今回の1年の内訳>

1)肩関節：75例

- ①関節鏡視下手術 91例
- 腱板修復術 57例
- (パッチ形成2例を含む)
- 関節唇修復 9例
- 授動術 17例
- ②上腕骨近位骨折骨接合 8例

2)膝関節：25例

- ①関節鏡視下手術 19例
- 半月板切除 11例
- 半月板縫合 6例
- ACL再建術 1例
- 遊離体摘出 1例

②骨切り術…………… 6例
(内骨軟骨移植追加2例)

3)人工関節：18例

①膝関節全置換…………… 10例
(内リウマチ2例)

②股関節全置換…………… 8例
(内リウマチ1例)

4)大腿骨頸部骨折：112例

転子部骨折:骨接合…………… 72例

内側骨折:骨接合…………… 10例

人工骨頭挿入…………… 30例

5)その他の骨折：86例

6)切断術：25例

大腿切断…………… 9例

下腿切断…………… 10例

足趾切断…………… 5例

手指切断…………… 1例

7)腱や靭帯など：30例

アキレス腱断裂…………… 7例

尺骨神経移行…………… 1例

手根管解放…………… 9例

ばね指…………… 13例

8)リウマチ手足手術：5例

9)その他(感染や抜釘など)：79例

合計471手術

認定施設

H28年3月から日本整形外科認定施設に認定されました。

今後の評価と来年度への展開

佐世保市を中心に北松や東彼杵群、西彼杵半島や佐賀県西部地域の救急医療や運動器の疾患等に対して常勤医師2名でできるだけの対応をしています。年間おおよそ400例の手術をしています。

とくに肩関節の手術に対しては専門医が少ない中、北原医師を中心に佐世保市でも中心的存在になりつつあります。

令和1年5月からは、変形性膝関節症に対する先進医療である次世代PRP療法であるAPS療法(血液由

来のバイオセラピー)についても開始できる運びとなりました。

何らかの理由で手術ができない方や従来の保存療法では効果が薄い患者さまに手術ではない新しい医療を提供できるものと考えています。(ただしまだ保険適応がないため当分の間実費治療になります)。今後も整形外科分野の地域医療に貢献していきたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。

Dept. of neurosurgery

脳神経外科・脳血管内科

脳血管障害や頭部外傷に最先端の診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



副院長・診療部長
阪元 政三郎
(さかもと せいざぶろう)

福岡大学 昭和60年卒
医学博士
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
長崎県北脳卒中研究会世話人
長崎県北神経懇話会世話人
日本脳神経外科学会代議員
福岡脳卒中連携セミナー世話人
福岡脳卒中救命セミナー世話人
福岡大学臨床教授



副部長
竹本 光一郎
(たけもと こういちろう)

福岡大学 平成15年卒
医学博士
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本脳神経血管内治療指導医



医長
天本 宇昭
(あまもと たかあき)

2018年4月就勤
長崎大学 平成22年卒
日本脳神経外科学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医



医員
手賀 丈太
(てが じょうた)

2019年4月就勤
長崎大学 平成27年卒



医員
古賀 隆之
(こが たかゆき)

2018年10月就勤
福岡大学 平成28年卒



医員
中島 弘淳
(なかじま ひろあき)

2019年4月就勤

琉球大学 平成23年卒



医員
古賀 嵩久
(こが たかひさ)

2018年9月退職
福岡大学病院へ異動

福岡大学 平成24年卒



医員
吉永 貴哉
(よしなが たかや)

2019年3月退職
河野脳神経外科病院へ異動

川崎医科大学 平成26年卒



医員
佐原 範之
(さはら のりゆき)

2019年3月退職
日本赤十字社福岡赤十字
病院へ異動

長崎大学 平成23年卒
日本内科学会認定内科医
日本脳神経血管内科治療学会専門医

診療内容

脳や脊髄および末梢の神経にいたるまで、あらゆる神経系の疾患をもつ患者さんを対象に、専門性の高い診断および手術治療ならびに血管内治療、脳梗塞治療を24時間体制で行っています。診療している主な疾患は以下のとおりです。
〈脳血管障害〉くも膜下出血(脳動脈瘤破裂)、未破裂脳動脈瘤、脳出血、脳動静脈奇形、脳梗塞、モヤモヤ病、頸動脈狭窄症など

〈脳腫瘍〉神経膠腫、髄膜腫、聴神経腫瘍、転移性脳腫瘍、下垂体腫瘍など

〈頭頸部外科疾患〉頭部外傷、顔面外傷など

〈脊椎・脊髄疾患〉変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍、脊髄動脈奇形など

〈機能的疾患〉顔面痙攣、三叉神経痛など

診療実績

2016年7月より脳血管内科医の加入により、内科と外科の共同した脳卒中治療が提供できるようになり、休みなしのリハビリテーションと協力して、より充実してきました。佐世保市は脳輪番体制が整い、平日のみならず、休日・夜間の急患対応がスムーズに行われており、当院もその一翼を担い、脳虚血疾患も増え、急性期血栓溶解療法(t-PA)および血栓回収療法が増加しています。

手術に関しては、動脈瘤治療は低侵襲なコイル塞栓術が開頭クリッピング術に対して2倍を超える症例数にな

りました。血行再建術(血栓回収、ステント留置術)はやや減少し、脳出血は小開頭による内視鏡下手術が増加しています。脳腫瘍・頭部外傷はやや増加しました。佐世保市は年々人口数の減少がありますが、高齢化が進み認知障害を伴う脳梗塞症例が増加傾向で、今後も脳血管障害は増加することが予想されます。脳梗塞に関しては予防医療が重要で、2016年度に血小板凝集能測定機を購入し、脳梗塞や脳血管内治療の適切な薬物管理が可能となり、再発や出血性合併症を最少限度にできるように行っています。

■主な診療実績

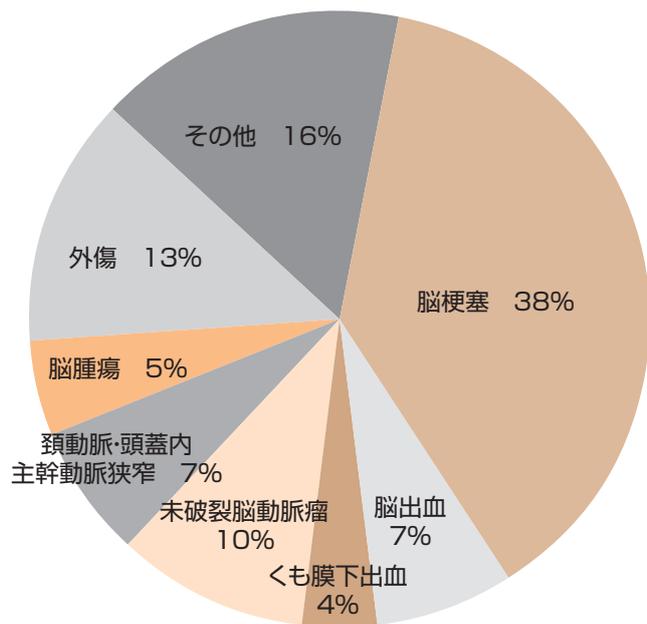
・外来患者数:5,710名 ・入院患者数:725名(2017年 691名)

・手術症例数:233件、脳虚血患者 288名 t-PA 9例

(件)

手術名	2016年(1月~12月)	2017年(1月~12月)	2018年(1月~12月)
開頭クリッピング	16(SAH 8)	26(SAH 8)	16(SAH 7)
動脈瘤コイルリング	7(SAH 3)	21(SAH 7)	34(SAH 8)
脳出血開頭血腫除去	19	18	14
脳動静脈奇形摘出	0	1	1
頸動脈内膜剥離術	9	6	6
頸動脈ステント留置術	12	17	10
STA-MCA/バイパス	1	0	3
脳腫瘍摘出(下垂体)	23(3)	19(4)	22(3)
急性硬膜外血腫	1	0	1
急性硬膜下血腫	9	11	8
慢性硬膜下血腫	37	23	45
V-Pシャント	5	8	4
頭蓋外ステント	3	1	6
頭蓋形成術	1	1	4
髄液ドレナージ	11	11	20
外減圧	3	4	1
頸椎前方固定	0	1	1
膿瘍除去	4	4	0
神経血管減圧術	0	0	1
緊急血行再建術	15	24	19
上記以外血管内治療	6	17	5
その他	14	19	12
計	196	232	233

■入院患者疾病別(2018年4月～2019年3月)



認定施設

日本脳神経外科学会 専門医訓練施設
 日本脳卒中学会 認定研修教育病院
 日本脳神経血管内治療学会 研修施設

今後の評価と来年度への展開

脳血管内科医の加入により脳血管内科と脳神経外科の共同した脳卒中治療が行われるようになり、外科手術は当然の事ながら、特に脳梗塞に関しては、詳細・正確な超音波検査、原因検索を行い、患者の状態を把握してよりの確な抗血栓・抗凝固療法が行われ、良好な医療が提供できているかと思えます。今夏よりナビゲーションシステムが導入される事となり、脳腫瘍や脳出血治療でより正確で安全な治療が可能となり手術時間短縮となり、患者の侵襲度も低くなるものと考えています。脳血管内治療部門は脳血管内治療指導医に加え、専

門医が1人増え、いつでも緊急に血管内治療が実施できるようになりました。年々メスを使用した外科手術より、侵襲の少ない血管内治療や神経内視鏡治療が増加し、良好な結果が得られ入院期間も短縮し、患者の満足度も高くなっています。今後も、この傾向は続くであろうと思われ、6人体制でチーム一丸となり、常時脳卒中に対応できる体制で、365日休まないリハビリテーションを含めた多職種とも連携した医療を心掛け、脳血管内科医と脳卒中リハビリテーション認定看護師と共に、さらなる脳卒中診療の充実を図っていこうと考えています。

Dept. of Cardiovascular Surgery

心臓血管外科

低侵襲心臓手術(MICS: Minimally Invasive Cardiac Surgery)を積極的に行っています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



部長
谷口 真一郎
(たにぐち しんいちろう)

長崎大学 平成11年卒
医学博士
日本外科学会専門医・指導医
日本胸外科学会正会員
日本胸外科学会九州地方会評議員
三学会構成心臓血管外科修練指導者
三学会構成心臓血管外科専門医
心臓血管外科国際会員
日本脈管学会認定脈管専門医
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医・指導医
ICD(インフェクション・コントロールドクター)



医長
嶋田 隆志
(しまだ たかし)
2019年4月就勤

長崎大学 平成23年卒
外科専門医
日本心臓リハビリテーション学会指導士認定
長崎大学病院群臨床研修指導医養成修了
臨床研修指導医



医員
宮永 竜弥
(みやなが たつや)
2019年4月就勤

長崎大学 平成28年卒



非常勤
(長崎大学病院 心臓血管外科助教)
中路 俊
(なかじ しゅん)

長崎大学 平成14年卒
日本外科学会専門医
三学会構成心臓血管外科専門医
日本脈管学会認定脈管専門医
胸部ステントグラフト実施医
腹部ステントグラフト実施医・指導医
心臓リハビリテーション指導士
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医・指導医
浅大腿動脈ステントグラフト実施医



副部長
尾立 朋大
(おだて ともひろ)
2019年3月退職
大分県立病院へ異動

長崎大学 平成12年卒
医学博士
日本外科学会外科専門医
三学会構成心臓血管外科専門医
日本脈管学会認定脈管専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本心臓リハビリテーション学会指導士
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医



医員
村上 健
(むらかみ たけし)
2019年6月退職
虹が丘病院へ異動

弘前大学 平成24年卒
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医
腹部ステントグラフト実施医

診療内容

24時間緊急に対応できる体制を整え、心臓・大血管疾患、末梢血管疾患の外科治療を中心に行っています。特に最先端治療である低侵襲手術として、①心臓弁膜症に対する右開胸小切開手術、②胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術、③下肢静脈瘤に対するレーザー焼灼術を積極的に行っており、体への負担が少ないやさしい専門医療を心がけています。長崎大学病院や地域医療機関と綿密に連絡を取り合い、長崎県北の循環器医療に貢献できるよう努めています。

①心臓疾患

心臓の病気には数多くの種類がありますが、大きくは生まれつき心臓に異常がある先天性疾患と、生まれた後に病気が生じる後天性疾患に分かれます。例えば先天性疾患には、心臓の壁に穴が開いている心房中隔欠損症や、心室中隔欠損症などがあります。後天性心臓疾患には心臓を栄養する血管が狭くなったりつまったりする狭心症や心筋梗塞、心臓を仕切る弁膜(大動脈弁・僧帽弁・三尖弁・肺動脈弁)に異常が生じる弁膜症などがあり、それらの病気に対し、冠動脈バイパス術や弁置換術・弁形成術などの外科治療を行っています。

特に最近では、高齢者の方々の手術が増加しており、手術侵襲を少なくするために胸骨を切開しない低侵襲心臓手術を積極的に行っています。

〈低侵襲心臓手術〉

(MICS:minimally invasive cardiac surgery)

通常的心臓手術では胸骨正中切開と胸の中央の骨(胸骨)を約25cm程度縦に切開する大きな創部となります。当院で行っている低侵襲手術は、約6cm程度の創部で、右胸の肋骨と肋骨の間を切開する小切開による心臓手術です。

胸骨を切らないため出血が少なく、傷の感染リスクもほとんどありません。傷が小さいため、特に女性では創部が乳房に隠れほとんど見えなくなり、美容上も優れています。

一般的な胸骨正中切開の手術後は、自動車の運転や肉体的労働、テニスやゴルフなどのスポーツはしばらく控える必要がありますが、MICSではそのような運動制限はありません。

そのため、早期のリハビリテーションと早期社会復帰が可能となり、手術後の生活の質が向上します。

〈ステントグラフト治療とは?〉

ステントグラフト治療とはカテーテルで血管内に人工血管を留置する方法で、利点として一般の手術より体への負担は軽減され、入院期間も短縮できます。しかし、動脈瘤の状態に適応が制限されることや治療効果などの問題点があります。個々の症例ごとによく検討する必要があります。治療法ですが、今後さらに増加していくと考えられます。

③末梢血管疾患

末梢血管疾患は動脈疾患と静脈疾患に分かれます。足の動脈が狭くなったりつまったりする閉塞性動脈硬化症については、下肢バイパス手術や血管の中から風船で治療する血管内治療を行っています。静脈疾患の外科治療では静脈瘤に対して血管エコーを用いて診療し、手術の際にも血管エコーで静脈瘤の様子をみながら、適切で最小限の皮膚切開を行う方法で、ストリッピング手術や逆流している静脈の内側からレーザーで静脈の壁を焼く「血管内レーザー焼灼術」を行っています。

②大血管疾患

大血管の病気は血管壁に亀裂が入る大動脈解離と、血管が次第に拡張してくる大動脈瘤などに大きく分かります。特に、大動脈解離は診療に急を要するケースが多い病気です。そのような急を要する病気に対しても、私たちは24時間緊急に対応できる体制を整え診療を行っています。大動脈瘤に関しては動脈瘤を切除して人工血管に取り換える手術が一般的ですが、私たちの施設ではステントグラフト内挿術を行うことも可能であり、多くの治療法の提案ができ、その中から最適と思われる治療を受けることが可能です。

〈血管内レーザー焼灼術〉

(EVLA:endovenous laser treatment)

下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術は、逆流している静脈の中に光ファイバーを通し、レーザーにて血管の内側から静脈の壁を焼く治療法です。焼かれた血管は変性して硬化し細くなり、従来のストリッピング手術と同じ効果が得られます。ストリッピング術に比べ出血も少なく、傷跡もほとんど残りませんので、『低侵襲』かつ『低リスク』です。

診療実績

手術名	心臓血管外科の実績(手術件数)			
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
開心術(MICS)	33(5)	47(7)	70(8)	50(16)
胸部大血管(ステントグラフト)	12(6)	14(11)	16(7)	13(8)
腹部大血管(ステントグラフト)	26(13)	16(10)	25(19)	15(12)
末梢動脈	15	19	34	17
末梢静脈(下肢静脈瘤レーザー焼灼術)	157(138)	200(188)	206(181)	210(189)
内シャント造設術	48	27	31	10

認定施設

- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・胸部・腹部ステントグラフト実施施設
- ・下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施施設

Dept.of Dermatology

皮膚科

皮膚科領域全般にわたり診療を行っています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



部長

山口 宣久

(やまぐち のりひさ)

福岡大学 平成8年卒

診療内容

当科は平日の午前一般外来診療、局所処置、光線治療などを行い、午後は時間を要する検査・処置および日帰り手術、他科および自科の入院患者さんの診察・処置などを行っています。

第1・3・5の火曜にはコメディカルと併せて褥瘡回診を行っています。

治療は原則として各疾患に対するいくつかのオーソドックスな治療法の中から、症状や患者さんの背景を考慮して最も適切な治療法を選択しています。

皮膚疾患の多くは何度も繰り返し、完全に治癒するまでに長い時間がかかるものが多いことから、当科では患者さんに根気強く治療を続けていただけるよう、皮膚症状に対する薬物療法にとどまらず、生活習慣や生活環境の見直しも含めたアドバイスをさせていながら診療をすすめています。

皮膚疾患の性格上、外来での通院が主体となりますが、外来では症状のコントロールが不十分な症状の場合は入院治療を要します。

症状は内科系の全身疾患の一症状として現れることが少なくないため、その可能性が疑われる場合には他の診療科との連携を重視して診療をすすめていきます。

主な疾患は以下の通りです。

- ＜湿疹・皮膚炎＞アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、自家感作性皮膚炎、皮脂欠乏性湿疹など
- ＜蕁麻疹・痒疹・皮膚瘙癢症＞蕁麻疹、痒疹、皮膚瘙癢症など
- ＜紅斑・紅皮症＞手掌紅斑、多形紅斑、紅皮症、Stevens-Johnson 症候群など
- ＜薬疹＞薬疹、薬剤過敏性症候群、手足症候群など

＜血管炎・紫斑・その他の脈管疾患＞蕁麻疹、皮膚小血管性血管炎など

＜膠原病および類縁疾患＞全身性エリテマトーデスおよび類縁疾患、強皮症、皮膚筋炎など

＜物理化学的皮膚障害・光線性皮膚疾患＞日光皮膚炎、熱傷、凍瘡、化学熱傷、放射線皮膚炎、褥瘡など

＜水疱症・膿疱症＞天疱瘡、水疱性類天疱瘡、掌蹠膿疱症など

＜角化症＞乾癬、類乾癬、魚鱗癬、苔癬、鶏眼、胼胝など

＜色素異常症＞尋常性白斑、老人性色素斑など

＜真皮、皮下脂肪組織の疾患＞結節性紅斑、環状肉芽腫、脂肪織炎など

＜付属器疾患＞尋常性痤瘡、円形脱毛症、爪甲の変化(爪甲剥離、陥入爪)、男性型脱毛症*など(*保険適応外)

＜母斑と神経皮膚症候群＞母斑細胞母斑、神経線維腫症など

＜皮膚の良性腫瘍＞脂漏性角化症、表皮嚢腫、化膿性肉芽腫、皮膚線維腫など

＜皮膚の悪性腫瘍＞基底細胞癌、有棘細胞癌、光線角化症、Bowen病、癌の皮膚転移、悪性黒色腫(メラノーマ)など

＜ウイルス感染症＞水痘、帯状疱疹、尋常性疣贅、伝染性軟属腫など

＜細菌感染症＞伝染性膿痂疹、丹毒、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎など

＜真菌症＞白癬(手、足、爪、体部、股部)、皮膚カンジダ症、癬風など

＜抗酸菌感染症＞皮膚結核、硬結性紅斑など

＜性感染症＞尖圭コンジローム、梅毒など

＜節足動物などによる皮膚疾患＞虫刺症、蜂刺症、マダニ刺症、疥癬など

主な検査・治療

《検査》

■顕微鏡検査：

真菌(糸状菌、カンジダ)やダニなどの検出

■ダーモスコピー検査：母斑、腫瘍等の鑑別

■アレルギー検査

・パッチテスト：歯科金属のアレルギー検査(施行時期に制限あり)

・プリックテスト：ミルクアレルギーテスト(小児科併診)

■皮膚生検：皮膚病変の確定診断や疾病の深達度など診断するため、病変を含めて皮膚を一部切除し、病理学的に診断を行う検査です。局所麻酔下を実施しますので、以前に抜歯などの際、局所麻酔で気分が悪くなった方は、予めその旨お教えてください。

《治療》

■冷凍凝固療法：イボなどの良性腫瘍、表在性の皮膚悪性腫瘍に対して適応

■局所注射法：術後瘢痕、ケロイドなどへステロイド局所注射

■光線療法：

・narroband-UVB(全身型)(適応症：乾癬、アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症、尋常性白斑、結節性痒疹など)

・エキシマライト治療：(適応症：乾癬、掌蹠膿疱症、尋常性白斑、円形脱毛症)

■巻き爪の治療：

・弾性ワイヤー治療(要部品代)

・陥入爪根治術(フェノール法)

■外来または入院による手術(皮膚皮下腫瘍切除術、皮膚悪性腫瘍切除術)。

・基本的には局所麻酔で行います。

・皮弁形成術、植皮術は患部の大きさにより全身麻酔となります。

《自由診療(保険適用外)》

■男性型脱毛症：プロペシア、ザガーロ

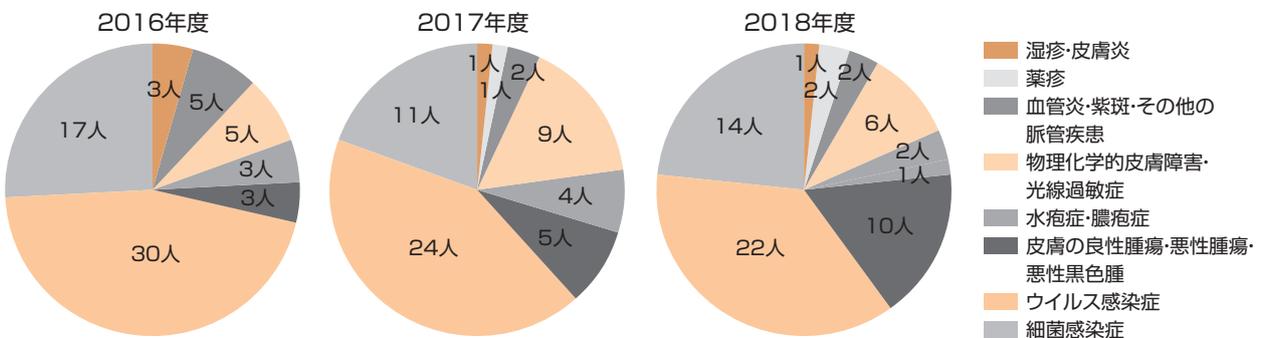
診療実績

■外来,入院統計

		2016年度	2017年度	2018年度
外来患者数	名	4,405	4,188	3,957
外来新患数	名	254	223	259
入院患者数	名	66	57	62
延入院患者数	日	918	817	820

検査・手術		2016年度	2017年度	2018年度
皮膚組織試験採術(皮膚生検)		43	48	38
皮膚皮下腫瘍摘出術	入院	2	1	6
	外来	20	25	22
陥入爪根治術	入院	0	0	3
	外来	4	4	1
皮膚悪性腫瘍切除術	入院	1	3	3
	外来	3	0	1

■入院治療疾患内訳



今後の評価と来年度への展開

皮膚科は専門的な面のみならず、他科とのつながりも深い診療科です。地域の皆様の病気、健康増進に少し

でもお役に立てられるように、日々研鑽を積み重ねていきたいと思っております。宜しくお願い致します。

Dept.of pediatrics

小児科

子どもの心と体の健康維持に誠実に取り組みます。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



診療部長
山田 克彦
(やまだ かつひこ)

大分医科大学 平成2年卒
日本小児科学会認定 小児科専門医・指導医
日本循環器学会認定 循環器専門医
日本川崎病学会会員
日本小児アレルギー学会会員



部長
犬塚 幹
(いぬつか みき)

大分医科大学 平成6年卒
日本小児科学会認定 小児科専門医
日本小児神経学会認定 小児神経専門医
日本てんかん学会認定 てんかん専門医 指導医
日本小児心身医学会会員
日本小児東洋医学会会員

診療内容

地域の子どもの心と体のすこやかな成長を支援し、保護者への懇切でいねいな説明を心がけています。

新生児を除く乳児から思春期にかけての小児期発症の内科的疾患を、常勤医2名体制で、地域の先生方からのご紹介患者さんを中心に診療しています。また、

医師の専門性を生かして、小児循環器疾患、小児神経疾患の専門医療を行っています。

「子どもの現代病」とも言われる、食物アレルギー、生活習慣病(肥満)、起立性調節障害や心身症の診療にも正面から取り組んでいます。

診療実績

■入院(表1)

区分	件数
入院延患者数	737
新入院患者数	133

■入院患者の内訳(表2)

ICD	分類	件数	ICD	分類	件数
A00-B99	感染症および寄生虫症	15	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	1
C00-D48	新生物<腫瘍>	1	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	6
D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	1	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	3
E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	27	R00-R99	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2
G00-G99	神経系の疾患	3	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	14
H60-H95	耳および乳様突起の疾患	1		合計	133
I00-I99	循環器系の疾患	1			
J00-J99	呼吸器系の疾患	58			

■外来

区 分	件 数
外来延患者数	3,091
初診（新規 ID 取得）患者数	297

■専門的医療

区 分	件 数
心身症カウンセリング	166
脳波検査	123
心エコー検査	213
トレッドミル試験	14
経口糖負荷試験（OGTT）	24
経口負荷試験（食物アレルギー）	13
成長ホルモン分泌刺激試験	13

重点目標・評価と来年度への展開

昨年末に成育基本法が成立しました。

この法律は、子どもが出生から新生児期、乳幼児期、学童期および思春期を経て大人になるまで、切れ目のない医療と福祉を提供されるよう定められた理念法であり、この法律を元に今後、国や地方の施策が進みます。同法成立を平成初頭から主導したのは全国の小児科医ですが、その背景には小児医療の目覚ましい進歩と社会の変化に伴う、小児医療の需要の変化が無関係ではありません。

長年にわたって小児の生命を脅かしてきた新生児・未熟児疾患、呼吸器感染症、消化器感染症が、医学の発展と先達の絶え間ない努力によって死亡原因としては大幅に減少した結果、乳児死亡率（千対）は1955年の39.8から、2017年には1.9にまで減少し、減多な事では子どもは亡くなくなりました。小児救急医療は高度・先鋭化して、今や地域ごとに成人の救急医療体制とは別サイクルで機能しています。専門医療や予防医学の進歩の象徴として、我が国は2018年に先進国で初めて小児の喘息死ゼロを実現しました。

このように成熟期を迎えつつある小児医療の世界で、当院小児科の役割は明らかです。地域医療機関での通院治療が困難な急性期患者の入院治療を受け持つ事、重症度や専門性の面から当院よりも他院転院が望ましい疾患・病態であれば、患者さんに安心を与え

られる誠実な医療連携を提供する事、サブスペシャリティ（小児循環器疾患と小児神経疾患）を活かした専門医療で地域の子どもたちの医療を地域で完結させる事、市中病院にしかできない臨床研究と学術発表で小児科学の発展に寄与する事です。

これらを示す指標として、15年前に数%もなかった入院紹介率は昨年度67%（過去最高）に達しました。10年前に年間51件しかなかった心エコー検査は4年連続200件を超え、脳波検査は9年連続100件を超えています。2006年に開設した小児心身症外来は昨年度だけで166回のカウンセリングを行い、2009年に1例から始めた小児生活習慣病外来は現在通院患者が50人を超えています。常勤医2名の診療科の規模に比して胸を張れる実績です。

学術面では昨年度の学会発表は6演題（全国3、地方3）、論文発表は1編でした。良質な医療の提供のために学術活動は欠かせません。診療面で多大な協力をいただいている他職種職員の学会発表にも、恩返しの意味で協力したいと思います。

今年度も、私たちは病院小児科が地域貢献できる最善の医療、さらに当院の基本理念「患者さんが1日も早く社会に復帰される事を願います」に通じる、私たちだからできる最良の医療の提供を目指します。

Dept. of urology

泌尿器科

基幹病院として「前立腺がん撲滅キャンペーン」に積極的に参加しています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



部長
徳永 亨介
(とくなが こうすけ)

金沢医科大学 平成 8年卒
日本泌尿器科学会認定専門医



理事
非常勤
南 祐三
(みなみ ゆうそう)

東京医科大学 昭和53年卒



非常勤
丸田 耕一
(まるた こういち)

2019年4月就勤

山口大学 昭和52年卒

診療内容

男性特有の病気である前立腺疾患をはじめとして、排尿に関係するすべての臓器(腎臓、尿管、膀胱、尿道)の疾患の患者さん(女性・小児を含む)を対象に、診断、治療を行っています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈前立腺疾患〉前立腺肥大症、前立腺がん、前立腺炎など

〈尿路結石症〉腎臓結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石など

〈尿路感染症〉腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎など

〈その他〉脳・脊髄障害による神経因性膀胱、尿失禁、勃起障害、腎臓がん、膀胱がん、アルドステロン症・クッシング症候群などの副腎疾患、停留精巣など

日本人の前立腺がんは近年急増しており、この10年間で死亡者数がおよそ2倍になっています。高齢化が進む中であって、患者数はさらに増加することが懸念されています。当科は、国が5ヵ年計画で取り組んでいる「前立腺がん撲滅キャンペーン」に、佐世保の基幹病院として積極的に参加しています。

診療実績

全く自分自身の排尿状況と重なることに気づく今日この頃であります。むしろ患者さんの立場での診療ができて有り難く思っております。

当院も地域医療支援病院の資格が与えられ、当科がいかに関域に貢献できるかという診療姿勢が問われております。そうとは言え、診療能力(マンパワー)が資格取得後に大幅にアップしたわけではありません。資格取得前と同じマンパワーで、従来よりもさらに地域に貢献できる診療体制を築くためにはいかにあるべきかを考えます。

それを達成できるかどうかは、一つはいかに地域の医療機関と連携できるかが重要な課題であろうことは推察

できます。病診連携は各施設でそれぞれに努力されており、少しずつではありますが結果が出てきている状況です。ただ、病病連携となると、まだまだ各基幹病院間に長年の壁があり、連携がうまくとれず患者さんにご迷惑をおかけするようなことを経験されるのが現状でありましょう。

2018年度は各基幹病院の得意分野や施設基準を踏まえての病病連携を行い、当科が特化できる分野を他の医療機関に認知していただいて、その事を基礎においた地域医療貢献を念頭において活動してきたつもりですが、まだまだ認知度が低く次年度も頑張るって理念達成のための努力を継続する覚悟であります。

■主な診療実績

経尿道的膀胱腫瘍切除術	15例	その他(小手術)	4例
経尿道的前立腺切除術	1例	前立腺針生検	67例

Dept. of ophthalmology

眼科

網膜や黄斑、白内障などの専門的診断・治療を実施しています。

診療担当医 ※2019年7月31日現在



副部長
和田 光代
(わだ みつよ)

防衛大学 平成7年卒



非常勤
隈上 武志
(くまがみ たけし)

鳥取大学 平成3年卒
日本眼科学会専門医

診療内容

2019年4月より、視能訓練士2名、常勤医1名、非常勤1名体制となりました。

【主な疾患】

白内障、緑内障、結膜炎、ドライアイ、アレルギー、麦粒腫、ぶどう膜炎、硝子体出血、糖尿病網膜症、網膜裂孔、網膜剥離、黄斑変性、黄斑円孔など網膜裂孔、網膜剥離、黄斑変性など

診療実績

検査 ※2018年4月～2019年3月

精密眼圧測定	1,832例	眼筋機能精密検査及び輻輳検査	114例
屈折検査	1,666例	角膜内皮細胞検査	112例
細隙灯顕微鏡検査(前眼部及び後眼部)	1,540例	矯正視力検査(1以外の場合)	101例
細隙灯顕微鏡検査(前眼部)	503例	矯正視力検査(眼鏡処方箋の交付)	6例
細隙灯顕微鏡検査(前眼部)(後生体染色)	230例	角膜曲率半径計測	69例
精密眼底検査(両側)	1,402例	前房水漏出検査	68例
精密眼底検査(片側)	449例	涙管通水検査	48例
眼底三次元画像解析	1,245例	眼球突出度測定	36例
光干渉断層血管撮影	795例	精密視野検査	25例
眼底カメラ撮影(自発蛍光撮影法の場合)	281例	コンタクトレンズ検査料	124例
眼底カメラ撮影(蛍光眼底法の場合)	26例	光学的眼軸長測定	19例
眼底カメラ撮影	8例	瞳孔機能検査	19例
前眼部三次元画像解析	41例	角膜形状解析検査	14例
静的量的視野検査(片側)	800例	前房隅角検査	8例
動的量的視野検査(片側)	114例	網膜電位図(ERG)	10例
色覚検査	167例	角膜知覚計検査	1例
中心フリッカー試験	129例		

■ **処置** ※2018年4月～2019年3月

睫毛抜去	6例
眼処置	2例

■ **手術** ※2018年4月～2019年3月

水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他のもの)	56例
網膜光凝固術	13例
後発白内障手術	9例
硝子体基頭微鏡下離断術	5例
隅角光凝固術	5例

瞼板切除術(巨大霰粒腫摘出)	3例
眼瞼結膜腫瘍手術	2例
緑内障手術(濾過手術)	2例
緑内障手術(流出路再建術)	1例
結膜腫瘍摘出術	1例
結膜結石除去術(少数のもの)	1例
麦粒腫切開術	1例

■ **注射**

硝子体内注射	124例
テノン氏嚢内注射	4例

重点目標・評価と来年度への展開

・患者様の目の健康を守るため、的確でやさしい診療を目指します。

・最新の医療情報を提供出来るよう、日々専門知識の習得に努めます。

Dept. of Otolaryngology

耳鼻咽喉科

中耳炎や難聴、鼻炎・副鼻腔炎などの専門的診断・治療を実施しています。

■ 診療担当医 ※2019年7月31日現在



部長
大里 康雄
(おおさと やすお)

長崎大学 平成9年卒
日本耳鼻咽喉科学会専門医

診療内容

現在、耳鼻咽喉科は、常勤医1名+非常勤1名にて診療を行っています。

よって、頭頸部腫瘍手術などに関しましては当科では対応できませんが、それ以外の領域につきましては、従来と同様のサービスを提供できるよう、努力しております。

<耳疾患>

- ・めまい、難聴などの精査や治療
- ・滲出性中耳炎の治療や、鼓膜チューブ留置術
- ・慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎などに対する精査や、鼓膜形成手術・鼓室形成手術
- ・急性中耳炎、耳内異物などに対する処置や治療

<鼻疾患>

- ・アレルギー性鼻炎に対する精査や、薬物治療・外科的治療など
- ・慢性副鼻腔炎、副鼻腔囊腫、鼻中隔彎曲症、鼻骨骨折などに対する手術

- ・急性鼻炎、鼻出血、嗅覚障害、鼻腔内異物などに対する処置や治療

<咽喉頭・頸部疾患>

- ・咽喉頭炎、扁桃炎、唾液腺炎、頸部リンパ節炎など、急性炎症に対する治療
- ・慢性扁桃炎、扁桃病巣感染症、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出手術
- ・小児の滲出性中耳炎に対するアデノイド切除術・口蓋扁桃摘出手術
- ・咽頭異物に対する内視鏡下異物摘出手術
- ・咽喉頭領域の悪性腫瘍に対する組織検査や放射線治療
- ・嚥下障害の症例に対する嚥下内視鏡検査や、言語聴覚士による嚥下リハビリテーション

診療実績

嚥下機能評価(嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査) …… 25例
 両側口蓋扁桃摘出手術 …… 7例
 気管切開術 …… 5例

内視鏡下鼻内副鼻腔手術 …… 8例
 喉頭微細手術 …… 2例

Dept. of Radiology

放射線科

胸腹部の悪性腫瘍治療にハイパーサーミアを積極的に使用しています。

診療担当医 ※2019年7月31日現在理事・副院長
地域医療連携センター長
医療情報本部長**平尾 幸一**
(ひらお こういち)長崎大学 昭和56年卒
医学博士
日本医学放射線学会診断専門医
日本医学放射線学会研修指導者
日本ハイパーサーミア学会認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
九州山口ハイパーサーミア研究会世話人

診療部長

堀上 謙作
(ほりかみ けんさく)長崎大学 平成5年卒
医学博士
日本医学放射線学会診断専門医
日本医学放射線学会研修指導者
検診マンモグラフィ読影認定医

部長

末吉 真
(すえよし まこと)長崎大学 平成8年卒
日本医学放射線学会診断専門医
日本医学放射線学会研修指導者

医員

高松 紘子
(たかまつ ひろこ)

2019年4月就勤

昭和大学 平成28年卒

非常勤

林 邦昭
(はやし くにあき)長崎大学 昭和39年卒
医学博士
日本医学放射線学会診断専門医

非常勤

山崎 拓也
(やまざき たくや)宮崎大学 平成8年卒
日本医学放射線学会治療専門医
日本放射線腫瘍学会認定医
日本がん治療認定医

診療内容

画像診断業務

- ・CT、MRI、核医学、血管造影（心臓カテーテル検査、脳血管造影以外）による検査と診断は全て放射線科が行っています。
- ・CT、MRI検査は、地域医療機関に積極的に利用していただいています。（1,370件/年）
- ・当院の特徴の一つは、胸部単純X線写真の読影を行っていることであり、主治医とのダブルチェックの役割を果たしています。
- ・検診マンモグラフィ読影は、マンモグラフィ読影認定医3名（放射線科及び外科）がダブルチェックを行っています。
- ・検診の胸部写真・肺CT・脳MRIは放射線科と健診センター（健診医）がダブルチェックを行っています。
- ・CT、MRI、核医学の報告書は約98%が検査後24時間以内に作成されています。

IVR

- ・血管系IVRは肝腫瘍に対する肝動脈化学塞栓療法が最も多い割合を占めています。
- ・内視鏡的止血が困難な症例に対して消化管出血の動脈塞栓術を実施しています。
- ・非血管系のIVRは胆道系（ドレナージや胆道内瘻化）、膿瘍ドレナージが多くを占めています。
- ・胸腹部大動脈ステント留置術を心臓血管外科と共同で行っています。

放射線治療・ハイパーサーミア（温熱療法）

- ・毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会治療専門医による放射線治療計画を行っています。
- ・地域医療機関より、乳房温存術後や子宮がんの放射線治療依頼を受けています。
- ・他院で化学療法を受けている方でも当院でハイパーサーミア（温熱療法）を受けることが可能です。

診療実績

■画像診断

胸部単純X線写真読影	21,449件
血管造影検査	166件
CT	14,968件
MRI	8,022件
マンモグラフィ	2,509件
核医学検査	952件

■IVR

血管系IVR	
肝動脈化学塞栓療法	36件
透析シャントの血管拡張術	28件
大動脈ステント内挿術	18件
腸骨動脈塞ステント内挿術	11件
その他	15件
非血管系IVR	
胆のう・胆管ドレナージ・内瘻化	10件
ドレナージ(CT・超音波検査ガイド下)	3件
生検(CT・超音波検査ガイド下)	17件
CTガイド下マーキング	2件

■放射線治療

乳房	45件
肺	7件
膀胱・前立腺	20件
肝臓・胆道・膵臓	3件
食道	6件
その他	76件

■ハイパーサーミア

24件

外来診療体制

■画像診断業務・血管造影検査・IVR

月～金曜日 8:30～17:30
 地域医療機関からの検査依頼も上記時間に実施しています。
 なお救急等の緊急検査依頼は、365日24時間対応しています。

■放射線治療

毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会治療専門医による放射線治療計画を行っています。なお、水曜日が祝日の場合には、曜日を変更して放射線治療計画を立てて行います。

■ハイパーサーミア

日本ハイパーサーミア学会認定医、臨床工学技士、看護師が共同で治療を実施しています。また、セカンドオピニオン外来も行っています。

■健診への協力

健診画像(肺CT、脳MRI、胸部写真、マンモグラフィ)の全件を読影しています。

認定施設

- ・日本医学放射線学会専門医修練機関
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設

Dept. of anesthesiology

麻酔科

術中の麻酔管理とICUの管理・運営を行っています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在

診療部長

堤 雅俊

(つつみ まさとし)

長崎大学 昭和62年卒
麻酔標榜医

部長・ICU部長

福島 浩

(ふくしま ひろし)

長崎大学 平成5年卒



副部長

吉村 真紀

(よしむら まき)

大分医科大学 平成7年卒
医学博士
麻酔標榜医

診療内容

当科はスタッフ3名で術中麻酔管理を主な仕事としており、そのほとんどは全身麻酔症例です。また、ICUにお

いて看護課長・主任と共に管理・運営を行っています。

診療実績

2018年度の手術症例は1,779例で、全身麻酔症例は1,143例(うち緊急手術は137例)です。

全身麻酔の各科別の内訳は外科536例(緊急76例)・脳神経外科122例(緊急43例)・心臓血管外科325例(緊急16例)・整形外科143例(緊急1例)・耳鼻咽喉科15例(緊急0例)・泌尿器科0例です。

麻酔法はセボフルレン・レミフェンタニルによるバランス麻酔またはプロポフォール・レミフェンタニルによる全静脈麻酔です。

ICUは10床で運営しており、重症者と術後(主に全身麻酔後)を受け入れています。

2018年度は1,125名の入室があり、稼働率は86.02%で1月が88.2%と最も高く、10月が74.4%と最も低い稼働です。内訳は外科512名・脳神経外科305名・脳血管内科60名・循環器内科86名・心臓血管外科107名・一般内科35名・消化器内科16名・整形外科3名・泌尿器科1名です。

Dept. of Pathology

病理部

他診療科医と連携して病理診断やカンファレンスを実施しています。

診療担当医 ※2019年7月31日現在



診療部長
臨床検査部長
米満 伸久
(よねみつ のぶひさ)

長崎大学 昭和56年卒
医学博士
日本病理学会病理専門医・研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医
日本臨床検査医学会管理医
死体解剖資格
ICD(インфекション・コントロール・ドクター)
佐賀大学医学部臨床教授
佐賀大学医学部非常勤講師
佐世保市医師会看護学校非常勤講師
Pathology International編集委員

非常勤

尹 漢勝
(ゆん かんかつ)

長崎大学 昭和50年卒
医学博士
日本臨床病理学会病理専門医・研修指導医
死体解剖資格
長崎大学大学院医薬学総合研究科病理学 客員教授

非常勤

戸田 修二
(とだ しゅうじ)

佐賀大学 昭和59年卒
医学博士
日本臨床病理学会病理専門医・研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医
死体解剖資格
佐賀大学医学部 病因病態科学講座 臨床病態病理学 教授

非常勤

福岡 順也
(ふくおか じゅんや)

滋賀医科大学 平成7年卒
医学博士
日本臨床病理学会病理専門医・研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医
死体解剖資格
長崎大学大学院病理学 教授



非常勤
力武 美保子
(りきたけ みほこ)

佐賀大学 平成19年卒
日本病理学会病理専門医
死体解剖資格
佐賀大学医学部病院病態科学講座臨床病態病理学 助教

非常勤

上木 望
(うえき のぞみ)

長崎大学 平成24年卒

非常勤

唐田 博貴
(からた ひろき)

富山大学 平成26年卒

非常勤

黒田 揮志夫
(くろだ きしお)

富山大学 平成22年卒

非常勤

佐野 寿郎
(さの ひさお)

富山大学 平成25年卒

診療内容

日々の細胞診、生検診断、手術摘出臓器の病理診断、術中迅速診断、病理解剖および臨床病理カンファレンスを主な業務としています。

細胞診では、婦人科細胞診や尿細胞診はLiquid base cytology (LBC)を用いており、胸腹水、甲状腺など、他の領域でもLBC法を併用することにより、細胞を効率的に収集し診断するとともに、免疫組織化学や分子生物学への試料の応用を開始しました。穿刺細胞診もより良い標本を作成するため、細胞検査士をはじめとする病理部のスタッフが穿刺現場で、臨床医が採取し

た検体の処理に当たっています。

生検診断や摘出臓器の診断ではH.E.染色や特殊染色に加え、免疫組織化学がルーチン化されています。自動免疫染色装置を用いて作業の効率化を図るとともに、精度の高い染色を行っています。乳腺では従来からホルモンレセプターやHER2の染色のため、免疫組織化学が行われています。HER2染色では組織の固定状態が重要ですので、摘出後なるべく早く緩衝ホルマリンを摘出臓器に注入固定するようにしています。また、胃癌においても分子標的治療の開始に伴いHER2

染色やFISHによる診断と、大腸癌や肺癌でも分子標的治療の為の遺伝子診断を行っています。この為、手術摘出臓器も含め、原則的に中性緩衝ホルマリンで固定を行っています。

消化器科や外科系の医師とは、摘出臓器の切り出し時に立ち会ってもらい、実際の臓器の所見を術前の画像診断等と付き合わせて切り出しています。術前カンファレンスへの参加とともに、臨床医がそれぞれの症例で何を問題としているかをお互いに確認しつつ、臓器の検索を行うことが可能です。生検診断、摘出臓器の診断とともに、可能な限り早急に結果を臨床医に報告しています。消化器系の摘出標本については、毎週術前カンファレンス後に、術後の臨床病理カンファレンスで症例を呈示しています。消化器系以外の外科提出標本については、毎月合同カンファレンスを開催し、興味のある症例についてより詳細に検討を加えています。必要があれば、これらのカンファレンス後の追加検討も行っています。カンサーボードにも同様に密に関与しています。また腎生検では蛍光抗体法を含め腎臓内科医と一緒に組織を検鏡し、臨床データと照合しつつ診断のみならず治療方針も検討しています。

術中迅速診断では、乳腺のセンチネルリンパ節および温存術に於ける断端の検索が著しく増加しています。

1例にかかる時間が長くなる傾向にありますが、クリオスタット1台と病理部の技士数からいたしかたないところです。また術中細胞診との併用も日常的に行い、より精度

の高い術中診断を行えるようになりました。

剖検はどこの施設でも年を追って減少していますが、当院でも剖検数が減少しています。剖検症例はほぼ全例実際の固定臓器を示しながら、組織所見もまじえてCPCを行うことで解剖の結果を臨床へ還元しています。2018年度はCPCを8回開催しました。またご希望のあるご遺族には主治医からCPCをふまえた最終的な結果を報告させていただいています。

学会や研究会の支援も病理部で力を入れており、病理に関連したスライドの作成依頼は例年20例程度あります。若い医師には消化器のカンファレンスなどで内視鏡所見やESDなどの所見と照らし合わせつつ、病理所見も自ら発表しています。また病理部としての学会活動や研究会での発表の他、学会誌の編集委員としての査読業務、論文や教科書の執筆などの学術活動、大学や看護学校での講義などの活動も幅広く行いました。

佐賀大学病理学教室や長崎大学原研病理学教室・病理部とも密接な連携関係にあります。大学の教授以下スタッフにも病理診断に加わっていただき、ほぼ全症例をダブルチェック、あるいはトリプルチェックしています。また、大学の教室の協力により、一人病理医のフォローアップとともに、大学の若手の先生の人体病理学の卒業教育にも積極的に取り組んでいます。

また、長崎大学とVPNを接続し、デジタルパソロジーによるコンサルテーションシステムが2016年11月より稼働しています。

診療実績

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
組織診断	2,922件	3,161件	3,122件	3,226件	3,084件
細胞診断	4,892件	5,291件	5,232件	5,128件	4,867件
解剖	14件	12件	10件	10件	10件
剖検CPC	7件	9件	5件	5件	8件
診療病理カンファレンス	48件	45件	45件	52件	51件

Dept.of Medical Center of Cognitive Disorders

認知症疾患医療センター

認知症は、早めの発見・早めの治療が大切です。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



認知症統括顧問
センター長

井手 芳彦

(いで よしこ)

長崎大学 昭和46年卒
医学博士
認知症サポート医
日本神経学会認定専門医
日本内科学認定内科医

診療内容

全国的に増え続ける認知症患者さんに対応して、当法人では2009年10月に長崎県から「認知症疾患医療センター」の認可を受け、同年12月から診療を開始しました。

認知症専門医1名、精神保健福祉士2名、高次脳機能検査担当作業療法士1名、専任看護師2名、専任診療アシスタント1名、専任医療秘書1名の総勢8名で運営しています。

認知症およびその疑いのある患者さんを診察し、確定診断と治療/介護方針を立て、地域の紹介元医師(かかりつけ医)、あるいは「認知症サポート医」「認知症診療医」に紹介し、包括支援センター・介護施設へも誘導し、適切な治療と介護のアドバイスをを行っています。

通常の診療は3日間に渡って行っています。1日目はご家族から詳細な問診を行い、患者さんに脳MRIかCT、血液検査と心電図検査を行います。2日目は高次脳機能検査と核医学検査(脳血流SPECT、MIBG心筋シンチグラム、脳DAT-scan)を行います。3日目に本人の診察、全ての検査の説明と診断を行います。

病歴と高次脳機能検査で直ちに診断がつく認知症もありますが、正常加齢か認知症初期かが判断しにくいMCIが最近増えてきました。行動・心理症状(BPSD)を伴う患者さんの場合は、ご家族への適切な介護指導と、BPSDをやわらげる薬剤処方や連携精神科病院への紹介を迅速に行い、介護者の肉体・精神的負担を軽くすることを第一に考えています。

診療実績

当センターの受診希望者は増える一方です。予約から初診までの平均待ち時間は1ヶ月半です。

外来診療は月曜日～金曜日まで行っており、月曜日～金曜日の午前中と月・水曜日の午後を当て、月平均35名の新規患者さんを診ています。

2018年4月から2019年3月31日までの1年間で、ご家族から直接あるいは医療機関経由で、初診患者さん379人の診察を行いました。また、電話・面談では年間870件の相談を受けました。

鑑別診断の内訳は、正常加齢と認知症の境界(MCI)が10%未満、アルツハイマー型認知症(AD)が約60%でその80%以上はなんらかの血管障害(慢性脳虚血)を伴っています。レビー小体型認知症(DLB)が約13%、前頭側頭葉変性症(FTLD)が約8%です。純粋な脳血管性認知症は非常に少ないです。なかでもDLBとFTLDがじわりと増えてきました。DLBは心臓突然死が危惧され運動障害も加わりますので、他の認知症と比べて薬物治療・介護に気を遣います。FTLDに似

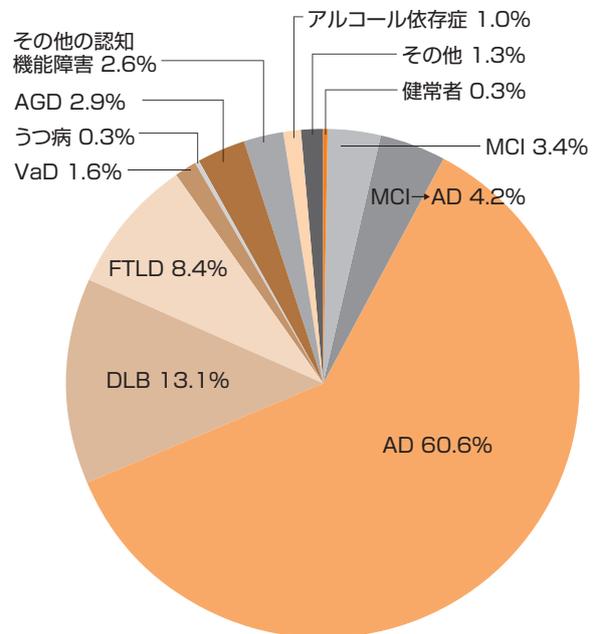
ていて昨今注目されている嗜銀顆粒性認知症（AGD）に接する機会が多くなりました。認知症全体では約3%ですが、FTLDの約30%となりました。AGDは一見、前頭側頭型認知症（FTD）の症状に似ていますが、進行が緩やかで認知機能障害があまりみられないのが特徴で、定期的に検査をおこなっていく必要があり、診断に苦慮します。FTLDはBPSDが最も出やすく、在宅での介護は実際上非常に困難といわれてきましたが、新薬メマンチンの登場で、ある程度の段階までは在宅でも介護が可能になりました。

2011年から行っている認知症患者さんの家族を対象とした「認知症健康教室:メモリー・クラスルーム」で

すが、2018年から一般かかりつけ医の診療を受けている認知症患者さんの家族にも門戸を開き、より多くの家族にこの授業を受けていただけるようになりました。メモリー・クラスルームでは認知症の基礎、介護の基礎、高齢者の栄養や通所施設の紹介などを我々スタッフや当法人の関連職員が分担して3時間ほど講義します。認知症に対する理解を深める事で、適切な介護方法を理解し、行動心理症状（BPSD）の予防や介護負担を軽くすることができます。授業に参加したご家族からは「患者さんの心の中がよく分かるようになり、対応が優しくなった結果、患者さんのBPSDが少なくなり介護が楽になった」という声が多数聴かれるようになりました。

■疾患別割合 (2018.4.1~2019.3新規患者のみ)

疾患名	人数	%
健常者	1	0.3%
MCI	13	3.4%
MCI→AD	16	4.2%
AD	230	60.6%
DLB	50	13.1%
FTLD	32	8.4%
VaD	6	1.6%
うつ病	1	0.3%
AGD	11	2.9%
その他の認知機能障害	10	2.6%
アルコール依存症	4	1.0%
その他	5	1.3%
合計	379	



■相談件数

(単位:件)

	相談件数	初診のための相談	定期受診・その他
相談件数	870	693	177
電話		29	—
面談		670	—

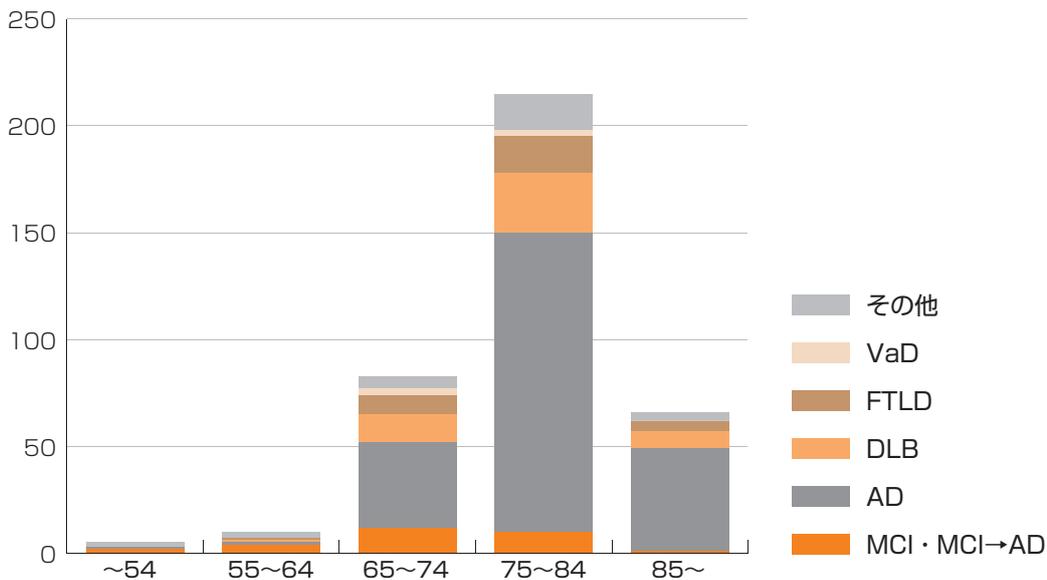
■診療件数

(単位:件)

	初診	追加検査の結果説明	薬効評価	定期受診
患者数	379	131	96	68
紹介状あり	370	—	—	—
紹介状なし	9	—	—	—

■年代別 疾患 (2018.4.1~2019.3.31)

	~54	55~64	65~74	75~84	85~
Healthy	0	1	0	0	0
MCI	1	1	7	4	0
MCI - AD	1	3	5	6	1
アルツハイマー型認知症	1	1	40	140	48
レビー小体型認知症(DLB)	0	1	13	28	8
前頭側頭葉変性症(FTLD)	0	1	9	17	5
血管性認知症(VaD)	0	0	3	3	0
その他	2	3	6	17	4



■初診受診者居住地 (単位:人)

佐世保市内	324(85.5%)
市外・県外	55(14.5%)

市外：平戸市、西海市、松浦市、佐々町、波佐見町、川棚町、ほか
 県外：佐賀県、ほか

■初診患者の介護保険 (単位:人)

介護保険有り	146
介護保険無し	233
佐世保市内地域包括支援センターへの紹介 (市内在住のみ)	185/233 (79.3%)

■画像検査(必須)

初診：頭部MRIまたはCT

RI検査(脳血流SPECT検査・MIBG心筋シンチ・DAT-scan SPECT)

■心理検査

高次脳機能検査(必須):ADAS-J cog、MMSE、FAB、CDT、Noise pareidolia test ほか
 うつスコア(必要時):SDS、GDS-15

■主な認知症疾患医療センター主催・共催の事業報告

《かかりつけ医認知症対応力向上研修：H30.9.27》

テーマ：認知症診療に関わる診療報酬、認知症対応力向上
講師：認知症疾患医療センター センター長 井手 芳彦

《第27回 長崎県北認知症研究会：H30.11.16》

特別講演：身体・認知・社会活動促進による認知症予防の可能性
講師：国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター
部長 島田 裕之 先生

《第7回 長崎県認知症疾患医療センター ケースカンファランス：H30.11.22》

テーマ：てんかんと認知症
症例報告：長崎大学病院、出口病院、佐世保中央病院
特別講演：てんかんと認知症
講師：長崎大学病院 脳神経外科 助教 馬場 史郎 先生

《Salon de Hiko-G～前頭葉を鍛えるプログラム》

- ・MCI、AD初期を対象とした脳機能訓練と有酸素運動を取り入れた講座
- [内容]
- ・脳機能訓練：かえ歌、フォト川柳(もしくは俳句)、数独や間違い探し
 - ・有酸素運動：ノルディックウォーク、コグニサイズ

《認知症予防トレーナー養成講座》

- ・認知症サポーター養成講座受講者や自治会長、サロン立ち上げを行っている方(または立ち上げを検討している方)などを対象とした講座
- [内容]
- ・1日目：認知症予防に関する最新のトピックス、認知症ケアの手法について
 - ・2日目：ノルディックウォーク
 - ・3日目：いきいき100歳体操、コグニサイズ

《認知症疾患地域支援ネットワーク会議》

3カ月に1回(奇数月) 15:00～17:00

《自動車運転免許に関する取り組み》

- ・自動車運転免許証返納の推進
- ・診断書依頼に関する受診相談

■その他

- ・院内職員対象の勉強会(講師)
- ・地域の専門職対象の勉強会(講師)
- ・地域住民対象の介護教室(講師)

Dept. of dentistry

歯科 (入院患者対象)

入院中の患者さんの口腔トラブルに対応いたします。

■ 診療担当医 ※2019年7月31日現在



常勤

川崎 貴子

(かわさき たかこ)

鹿児島大学 平成19年卒
日本口腔外科学会専門医

診療内容

入院中は手術や放射線治療・抗がん剤治療などで一時的に体力を消費させ感染症などのさまざまな合併症を生じることがあります。その中でも全身性感染症（菌性感染症・敗血症など）や誤嚥性肺炎は口腔内細菌が原因の一つとして考えられています。そういった口腔トラブルが原因となって発症する疾患を手術・治療前後の「周術期口腔機能管理」にて予防していきます。また入院中の歯の痛み・入れ歯があわない、歯茎が腫れた、お口の中に何かできものがあるなどのトラブルに対しても処置を行っています。

歯科は2016年9月より新しく開設された診療科です。

2018年度まで非常勤歯科医師3人で週に2日、診療を行ってきましたが、2019年度より日本口腔外科学会専門医の資格を持つ川崎先生が常勤として勤務することになり、入院中の患者さんのお口のトラブルに対してさらに迅速かつ丁寧なサポート、管理を行うことが可能となりました。また常勤の歯科衛生士2名も在籍しており、患者さんの口腔ケアに日々励んでおります。

今後も口腔トラブルや周術期の口腔機能管理で患者さんの健康増進に努めていく所存ですのでよろしくお願いたします。

診療実績

(2018年度)

院内歯科受診者	350名
周術期口腔機能管理・院内対象者	101名
NST歯科医師連携加算件数	167件

Health Care Center

健康増進センター

がんや生活習慣病の早期発見を目指し、予防医学活動を行っています。

■診療担当医 ※2019年7月31日現在



センター長
健康管理部部长
中尾 治彦
(なかお はるひこ)

長崎大学 昭和54年卒
医学博士
日本人間ドック学会社員(旧評議員)・ドック指導医・専門医 認定医
日本外科学会認定医
日本消化器病学会専門医
日本消化器外科学会認定医
日本医師会認定産業医
九州予防医学研究会理事



特別顧問
石丸 忠之
(いしまる ただゆき)

長崎大学 昭和42年卒
医学博士
長崎大学医学部 名誉教授
日本産科婦人科学会名誉会員・専門医
日本産婦人科内視鏡学会名誉会員
日本産婦人科手術学会功労会員
日本エンドメトリオース学会顧問
絨毛性疾患研究会顧問
日本医師会認定産業医



寺園 敏昭
(てらその としあき)

長崎大学 昭和59年卒



医長
川内 奈津美
(かわち なつみ)

佐賀大学 平成21年卒
日本内科学会認定内科医・専門医
日本人間ドック学会ドック認定医・専門医
日本リウマチ学会リウマチ専門医
日本医師会認定産業医
インфекションコントロールドクター

非常勤
元永 博子
(もとなが ひろこ)

東京女子医科大学 昭和53年卒
日本内科学会認定医
日本呼吸器病学会専門医

非常勤
草場 麻里子
(くさば まりこ)

長崎大学 平成9年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医

非常勤
黒田 揮志夫
(くろだ きしお)

富山大学 平成22年卒

非常勤
佐野 寿郎
(さの ひさお)

富山大学 平成25年卒

基本理念・基本方針

【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

【基本方針】

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い健康診断を提供します。
3. 健康診断や保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健康診断業務で得られた個人情報の守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

施設沿革

設立：1996年4月1日

沿革：1996年 前身となる白十字会医療社会事業部設立
 2002年 佐世保中央病院健康増進センターに改称
 （新館建設に伴い検査機器と環境の充実を図る）
 2008年 人間ドック学会健診施設機能評価認定取得

認定施設・指定

- ・ 日本人間ドック学会健診施設機能評価（Ver.4）認定施設
- ・ 日本人間ドック学会専門医研修指定施設
- ・ 健康保険組合連合会指定健診施設
- ・ 全国健康保険協会管掌健診指定施設

健診内容

健康増進センターは、佐世保中央病院に併設された健診施設で、2002年にそれまでの白十字会医療社会事業部から、新たにゆとりのある空間での快適な受診環境へと整備されました。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診などを除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、様々な健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師などの各専門スタッフが担

当し、健診の質の確保を図っています。

中尾は主として消化器系及びがん検診、石丸は婦人科系、寺園は主として呼吸器系と内科全般、川内は内科一般、草場は内視鏡を担当しております。

2008年12月、運営の合理性など第三者が評価する人間ドック学会の健診施設機能評価を受審し、認定を取得することができました。これからも、業務内容と環境の両面での見直しを行い、受診者目線で、質とサービスの向上に取り組んでいきたいと考えています。

健診実績

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
1日(日帰り)ドック	1,552	1,588	1,659	1,650	1,598
2日(宿泊)ドック	338	336	303	328	280
健診延べ件数	16,559	16,875	16,711	17,003	15,772

健診検査別実施数

検査名	実績数
胃内視鏡	3,118
胃透視	1,845
腹部超音波	2,257
心電図	6,231
眼底	2,143
眼圧	1,875
胸写	7,518
肺CT	676

検査名	実績数
マンモグラフィー	2,510
乳腺超音波	460
脳MRI	425
便潜血	5,587
大腸内視鏡	102
糖負荷試験	195
子宮頸部	2,986
子宮体部	91

研修医の紹介



前田 賢吾

(まえだ けんご)

長崎大学 平成30年卒

昨年に引き続き研修させていただきます。職員みなさんが研修医のことを知っていて下さり、研修先の診療科が細かく入れ替わってもスムーズに研修をすることができており、とても感謝しています。研修も残すところ1年間ですが、ご指導よろしくお祈いします。

研修期間 2018年4月1日～2020年3月31日



松岡 隆太郎

(まつおか りゅうたろう)

島根大学 平成30年卒

4月より1年間研修させていただきます。佐世保は初めてで不安もありましたが、先生方をはじめとして医療スタッフ方々や事務の方々のサポートがあり日々楽しく研修させていただいています。これからも感謝の心を忘れずに研修に取り組んでいきたいと思ひます。至らない点も多々あるかと思ひますが、どうぞよろしくお祈いします。

研修期間 2019年4月1日～2020年3月31日



千住 和正

(せんじゅう かずまさ)

長崎大学 平成31年卒

4月から2年間研修させていただきます。佐世保出身ではありませんが、病院の雰囲気の良さからこの病院で研修を希望しました。少しでも早く患者さんにより良い医療が提供できるように成長していきたいと思ひます。至らない点もあるかと思ひますが、どうぞよろしくお祈いします。

研修期間 2019年4月1日～2021年3月31日



中尾 優風子

(なかお ゆうこ)

長崎大学 平成31年卒

4月から2年間研修させていただきます。学生の頃より中央病院の先生方やスタッフの方に大変お世話になっており、この度この素晴らしい環境の中で医師としての第一歩を踏み出すことができることを大変うれしく思ひます。今はまだ未熟ですが、その分多くのことを吸収できる2年間にしたいです。ご指導のほど宜しくお祈い致します。

研修期間 2019年4月1日～2021年3月31日



平尾 京子

(ひらお きょうこ)

島根大学 平成31年卒

4月から2年間研修させていただきます。はじめて間もなくですが、すでに先生方やコメディカルの方、事務の方などたくさんの方にお世話になっていることを実感しています。この環境に感謝して、この2年間でたくさんのことを学べるよう毎日元氣にがんばります。ご指導よろしくお祈いします。

研修期間 2019年4月1日～2021年3月31日

学会賞等受賞記念学術講演会

2011年末より、その年の学会などにおける研究発表(症例報告を含む)で学会賞などを受賞した場合に、その栄誉を称えらるとともに貴重な研究発表を職員間で共有して学術研究活動を推

進することを目的として開催しています(受賞例が無い年は未開催)。2018年12月には第6回目を開催し、過去8年間で以下の12題の発表が各賞を受賞しました。

開催回 (開催年月日)	学会など賞の名称	発表タイトル 受賞者
第1回 (2011/12/27)	日本医療薬学会 奨励賞	抗MRSA薬の至適投与法の追究 —薬効評価と副作用解析に関する臨床薬物動態研究— 佐世保中央病院 薬剤部 課長 辻 泰弘
	日本糖尿病学会 九州地方会 支部会賞	糖尿病患者における心血管イベントの予知マーカーに関する研究 —接着因子、炎症、インスリン抵抗性を中心に— 佐世保中央病院 糖尿病センター長 松本 一成
第2回 (2012/12/25)	日本臨床細胞学会 秋季大会 新潟賞	ISO15189取得に向けての病理検査室での取り組み 佐世保中央病院 臨床検査技術部 主任 片淵 直
	日本認知症予防学会 学術集会 浦上賞	アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の早期鑑別 —MMSEにおける3単語遅延再生と五角形描画の乖離— 佐世保中央病院 リハビリテーション部 嶋田 史子
	長崎大学第1内科 関連病院賞	佐世保中央病院糖尿病センターの先進的取り組み 佐世保中央病院 糖尿病センター長 松本 一成
第3回 (2014/12/25)	長崎地域 リハビリテーション塾 最優秀発表賞	多職種連携により自宅退院を実現できた 間質性肺炎末期患者の一症例 佐世保中央病院 リハビリテーション部 主任 川上 章子
	MRSAフォーラム 優秀演題賞	バンコマイシンのMIC値がMRSA肺炎の治療効果に 及ぼす影響 佐世保中央病院 薬剤部 岩村 直矢
	日本循環器学会九州地方会 研修医セッション 最優秀賞	逆たこつぼ型の左室収縮異常を呈し、急性循環不全を 伴った褐色細胞腫の1例 佐世保中央病院 研修医 池田 貴裕
第4回 (2016/12/20)	日本認知症予防学会 学術集会 優秀賞(浦上賞)	急性期病院における看護師の認知症対応力向上プログラム 認知症疾患医療センターの取り組み 佐世保中央病院 認知症疾患医療センター 日和田正俊
	日本呼吸器学会・日本結核病 学会・日本サルコイドーシス/ 肉芽腫性疾患学会九州支部 夏季学術講演会 育成賞	淡水溺水に伴う急性呼吸窮迫症候群(ARDS)に 肺サーファクタント補充療法が奏功した一例 佐世保中央病院 研修医 平尾 宣子
第5回 (2017/12/25)	日本内科学会 九州地方会 初期研修医セッション 初期研修医奨励賞	両側肺に多発する結節影を契機に診断されたMTX関 連リンパ増殖性疾患(methotrexate-associated lymphoproliferative disorder;MTX-LPD)の1例 佐世保中央病院 研修医 大和 慎治
第6回 (2018/12/27)	九州リウマチ学会機関誌 第2回九州リウマチ優秀論文賞	長崎県における脊椎関節炎の診断と臨床的特徴 佐世保中央病院 リウマチ膠原病センター 部長 荒牧 俊幸

学会発表実績

呼吸器内科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2018年 5月12日	真菌症フォーラム 第24回 学術集会	肺病変を伴わない播種性クリプトコックス症の1例	小林 奨
2018年 7月14日	第85回 第二内科学会	発症早期より経過を追う事が出来た Goodpasture症候群の1例	小林 奨
2018年 9月28日	第9回 長崎県北部感染症研究会	佐世保中央病院における肺炎治療の現状	小林 奨
2018年 11月22日	第15回 長崎県北COPD研究会	「当院におけるCOPD患者の現状」	小林 奨
2019年 1月29日	第87回 長崎臨床感染症研究会	症例提示(放線菌症)	小林 奨

座長

会期	学会名	演題	演者	座長
2018年 9月25日	佐世保中央病院フォーラム	IPF・COPDの診断と治療の現状 と今後の展望	長崎大学大学院 医療学総合 研究科 呼吸器内科学分野(第 二内科)教授 迎 寛 先生	副島 佳文
2018年 9月27日	佐世保市ハナミズキの会	ガイドライン改訂からみた 喘息治療のポイント	熊本大学医学部附属病院 呼吸器内科 特任助教 中村 和芳 先生	副島 佳文

腎臓内科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2018年 6月29日~7月1日	第63回 日本透析医学会 学術集会・総会	非活動性感染症心内膜炎により脳梗塞を発症し、透析 導入の契機となった真性多血症を伴う透析患者の一例	上条 将史
2018年 11月18日	第323回 日本内科学会 九州地方会	腎出血を来した維持血液透析患者の2例	大塚絵美子

脳神経内科

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2018年 6月25日	武田薬品工業株式会社 主催 医学研究会		
2018年 10月17日	県北神経懇話会、エーザイ株式会社 主催 第132回 県北神経懇話会 特別講演会	①認知症とてんかんの鑑別が困難で あった症例とペランパネルの自験例 ②認知症を含む高齢者てんかん	①佐世保中央病院 副院長 竹尾 剛 ②音成神経内科・内科クリニック 院長 音成 龍司 先生

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2018年 10月30日	協和発酵キリン株式会社 主催 社内研究会	パーキンソン病治療に関する最新の医学的知見	竹尾 剛
2019年 3月7日	大日本住友製薬株式会社 主催 社内研究会		竹尾 剛

座長

会 期	学 会 名	演 題	演 者	座 長
2018年 5月15日	一三共株式会社 ユーシー ビージャパン株式会社 主催 Epilepsy Symposium in 佐世保～県北てんかん治療を 考える	①Opening Remarks ②当院で苦労したてんかん症例 ③当院におけるラコサミドの 新たな知見 ④最新のてんかん治療について ⑤Closing Remarks	①佐世保中央病院 小児科 部長 犬塚 幹 先生 ②長崎労災病院 脳神経外科 部長 北川 直毅 先生 ③佐世保市総合医療センター 神経内科 診療科長 藤本 武士 先生 ④西諫早病院 脳神経外科 てんかんセンター 馬場 啓至 先生 ⑤川棚医療センター 神経センター部長 戸田 啓介 先生	
2018年 6月12日	県北神経懇話会、大塚製薬 株式会社 主催 第131回 県北神経懇話会			
2018年 6月20日	ヤンセンファーマ株式会社、 武田薬品工業株式会社 主催 第3回 県北認知症 他職種連携事例検討会			
2018年 11月6日	協和発酵キリン株式会社 主催 パーキンソン病治療ワーク ショップ in 県北	①パーキンソン病の治療とリハビ リテーション～新しい治療法を含 めて～ ②ディスカッサント:高齢発症の パーキンソン病治療	①長崎北病院 院長 佐藤 聡 先生 ②長崎北病院 院長 佐藤 聡 先生 佐世保市総合医療センター 神経内科診療科長 藤本 武士 先生	

リウマチ・膠原病センター

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2018年 4月26～28日	第62回日本リウマチ学会総会・ 学術集会	日常診療下における非TNF阻害薬間スイッチ症例 の検討	來留島章太
		長崎県北医療圏における関節リウマチ患者の抗 HTLV-1抗体陽性患者の臨床的特徴	江口 勝美
		ループス腎炎における寛解導入後の治療反応予測 因子と生命予後の検討	一瀬 邦弘
		全身性エリテマトーデス合併妊娠におけるタクロリ ムスの併用とそのアウトカムに及ぼす因子の検討	一瀬 邦弘

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2018年 9月1～2日	第56回九州リウマチ学会	関節リウマチ治療 up-to-date -ヒト型IL-6受容体阻害剤サリルマブへの期待-	植木 幸孝
		関節リウマチに対する長期治療と生命予後	荒牧 俊幸
		悪性腫瘍を合併する全身性強皮症症例の検討	来留島章太
		抗HTLV-1抗体陽性関節リウマチ患者のHTLV-1プロウイルスDNA量の検討	江口 勝美
		全身性エリテマトーデス合併妊娠における周産期アウトカムに与える影響についての検討	一瀬 邦弘
2018年 9月15日	日本脊椎関節炎学会第28回学術集会	長崎県北部における脊椎関節炎の体軸病変に対する治療とその効果	荒牧 俊幸
2018年 10月26～28日	第20回日本骨粗鬆症骨粗鬆症学会	当院リウマチ・膠原病センターにおけるリウマチ性疾患患者の骨粗鬆症の評価と治療	荒牧 俊幸
2018年 11月24～25日	第33回日本臨床リウマチ学会	高齢関節リウマチ患者に対する生物学的製剤の有効性、安全性の検討	植木 幸孝
		単施設における生物学的抗リウマチ薬および分子標的合成抗リウマチ薬の継続率と中止理由についての検討	荒牧 俊幸
		多彩な免疫学的異常を有するHLA B27陰性強直性脊椎炎の一例	荒牧 俊幸
		発症年齢により関節リウマチの患者背景および初期治療の先約は異なるが初期治療への反応性は同等である。	荒牧 俊幸
		当院リウマチ患者における呼吸器感染症症例の報告	小島加奈子
		当センターにおける非感染性ぶどう膜炎患者の臨床的検討	江口 勝美
2019年 3月9～10日	第57回九州リウマチ学会	SLEの新しい抗体製剤～ベリムマブへの期待～	植木 幸孝
		発症年齢により関節リウマチの患者背景および初期治療の先約は異なるが初期治療への反応性は同等である。	荒牧 俊幸
		多彩な免疫学的異常を有するHLA B27陰性強直性脊椎炎の一例	荒牧 俊幸
		当院関節リウマチ患者における呼吸器感染症症例の報告	小島加奈子
		当センターにおける非感染性ぶどう膜炎患者の臨床的検討	江口 勝美

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2018年 4月1日	リウマチチーム・ワークヨップin沖縄	リウマチ治療に対する院内外のチーム医療	植木 幸孝
2018年 4月18日	社内レクチャーミーティング (UCBジャパン)	RA治療の現状 生物学的製剤の位置づけとシムジアへの期待	植木 幸孝
2018年 5月14日	佐世保骨粗鬆症カンファランス	リウマチ膠原病における骨粗鬆症治療の現状	植木 幸孝
2018年 5月16日	筑後RA治療を考える会	関節リウマチの最新治療～生物学的製剤からJAK阻害剤へ～	植木 幸孝
2018年 5月17日	リウマトレックス社内勉強会プログラム	RA治療における合併症	荒牧 俊幸
2018年 5月30日	RA治療懇話会in熊本	関節リウマチの最新治療～生物学的製剤からJAK阻害剤へ～	植木 幸孝

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2018年 6月11日	社内勉強会	RA治療の現状 生物学的製剤の 位置づけとケブザラへの期待	植木 幸孝
2018年 6月14日	リウマチエリアWEBセミナー 九州地区	関節リウマチにおけるACPAと NETosisの役割	江口 勝美
2018年 6月21日	長崎関節リウマチ学術講演会	当院におけるセルトリスマブペゴルの 使用経験	荒牧 俊幸
2018年 7月3日	若手のためのリウマチ性疾患画像 勉強会 特別講演会	当院でのSAPHO症候群のまとめ	小島加奈子
2018年 7月4日	アクテリオン福岡支店 社内勉強会	膠原病性肺高血圧症の診療の実際	植木 幸孝
2018年 7月13日	関節リウマチ治療を考える会	関節リウマチ診療における院内院外連携	荒牧 俊幸
2018年 7月22日	Tofacitinib 新適応追加記念 講演会in福岡	トファシチニブを臨床でどのように使用 するか	植木 幸孝
2018年 7月23日	社内勉強会 (ファイザー(株)佐世保オフィス)	膠原病と骨粗鬆症のかかわり -SERMを中心に-	植木 幸孝
2018年 7月28日	リウマチチームワークショップIN大分	リウマチ治療に対する院内外の チーム医療	植木 幸孝
	ゼルヤンツ5周年記念講演会in九州	実臨床におけるトファシチニブの 有効性と安全性	植木 幸孝
2018年 8月1日	鹿島藤津・武雄杵島・伊万里有田地区 医師会学術講演会 ～関節リウマチ・大型血管炎を考える～	関節リウマチと大型血管炎の診療の 進歩	江口 勝美
2018年 8月22日	ヤンセンファーマ社員教育講演	RA治療の現状 生物学的製剤の 位置づけとシンポニーへの期待	植木 幸孝
2018年 8月23日	中津市医師会講演会	リウマチ治療に対する院内外の チーム医療	植木 幸孝
2018年 8月25日	第3回 長崎リウマチチーム医療 ワークショップ	施設におけるチーム医療の取り組み	荒牧 俊幸
2018年 9月4日	県北RAフォーラム	高齢者の関節リウマチ診療の現状	植木 幸孝
2018年 9月29日	第2回リウマチ治療Up to date in 新潟	関節リウマチ治療 up-to-date- ヒト型 IL-6受容体阻害剤サリルマブへの期待-	植木 幸孝
2018年 10月5日	第21回福岡南部リウマチ研究会	リウマチ患者における骨粗鬆症の 現状と治療	植木 幸孝
2018年 10月12日	RA Meet The Specialist	実臨床におけるトファシチニブの 有効性と安全性	植木 幸孝
2018年 10月19日	RAチーム医療懇話会	長崎県北地区におけるRA医療連携 ～院内外のチーム医療の構築～	植木 幸孝
2018年 10月22日	大正富山医薬品勉強会	リウマチ患者における骨粗鬆症の現状 と治療 -ステロイド骨粗鬆症を中心に-	植木 幸孝
2018年 10月26日	県北リウマチネットワーク研究会	当院でトシリズマブを使用した 大型血管炎の検討	小島加奈子
2018年 11月5日	リウマチWEBセミナー	リウマチ最新治療 Golimumabへの期待	植木 幸孝
2018年 11月13日	久光製薬株式会社医薬情報 担当者研究会	リウマチ膠原病患者に対する疼痛マネー ジメント -経皮吸収型鎮痛消炎剤の選択-	植木 幸孝
2018年 11月16日	第4回トファシチニブ適正使用 講演会	実臨床におけるトファシチニブの 有効性と安全性	植木 幸孝
2018年 11月22日	札幌すずらんリウマチセミナー	リウマチ診療における病診医療連携の 必要性和IL-6阻害療法について	植木 幸孝

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2018年 11月27日	循環型地域連携講演会	佐世保中央病院におけるUveの 地域連携の現状	植木 幸孝
2018年 11月29日	第46回 県北膠原病研究会	当院におけるケブザラ(サリルマブ)の 使用経験	植木 幸孝
2018年 12月1日	リウマチチームワークショップin東京	リウマチ治療に対する院内外の チーム医療	植木 幸孝
2018年 12月4日	リウマチエリアWEBセミナー 九州地区	RA最新治療 Abataceptへの期待	植木 幸孝
2018年 12月6日	県北IL-6研究会	関節リウマチと大型血管炎の治療の進歩	江口 勝美
2018年 12月17日	GSK SLE勉強会	膠原病概論・SLEとは ベリムマブへの期待 SLE患者のインサイトについて	植木 幸孝
2018年 12月17日	臨床セミナー「骨粗鬆症について」	骨粗鬆症治療について	荒牧 俊幸
2019年 2月2日	第20回 RAトータルマネジメント フォーラム	RA実地診療におけるリスクマネージメント	植木 幸孝
2019年 2月5日	社内勉強会 「関節リウマチの治療方針」	関節リウマチ治療とその有害事象	荒牧 俊幸
2019年 2月9日	奈良リウマチカンファレンス	関節リウマチ治療 up-to-date -ヒト型 IL-6受容体阻害剤サリルマブへの期待-	植木 幸孝
2019年 2月12日	Lilly RA Web Conference	実臨床が紐解くリウマチ治療の新展開	植木 幸孝
2019年 2月19日	ベンリスタWeb講演会	本邦でのSLE治療薬における ベンリスタの位置付け	植木 幸孝
2019年 2月19日	若手のためのリウマチ性疾患画像 勉強会～特別講演会～	当院でのSAPHO症候群のまとめ	小島加奈子
2019年 2月20日	社内勉強会 シンポニー 博多final	リウマチ最新治療 Golimumabへの期待	植木 幸孝
2019年 2月22日	第5回リウマチ治療セミナー in SASEBO	関節リウマチ診療における関節エコーの 臨床意義と活用術について ～アバタセ プト投与におけるエコー評価を含めて～	植木 幸孝
2019年 2月27日	社内勉強会	リウマチにおける治療方針・薬剤選定に ついて	植木 幸孝
2019年 2月28日	佐世保地区Ps/PsAリウマチ科・ 皮膚科連携講演会	関節リウマチと乾癬性関節炎の診断と 治療のすすめ方	植木 幸孝
2019年 3月26日	社内研修会	リウマチにおける治療方針・薬剤選択 -JAK阻害剤の現状と期待-	植木 幸孝
2019年 3月30日	西日本バリシチニブ研究会	実臨床下のリウマチ診療 バリシチニブ への期待 九州中国地区バリシチニブ 多施設共同研究	植木 幸孝

座長

会 期	学 会 名	演 題	演 者	座 長
2018年 5月24日	県北関節エコー研修会	関節エコーの臨床	長崎大学大学院医歯薬学総 合研究科 先進予防医学専 攻リウマチ膠原病内科学分野 川尻 真也 先生	荒牧 俊幸
2018年 7月6日	第16回「県北自己免疫疾患 フォーラム」～総合医として のスキルアップ～	関節リウマチにおける最適な治療 法と新規薬剤の展望:Update	長崎大学大学院医歯薬学総 合研究科 先進予防医学講 座リウマチ膠原病内科学分 野教授 川上 純 先生	江口 勝美

会 期	学 会 名	演 題	演 者	座 長
2018年 9月1~2日	第56回 九州リウマチ学会	リウマチ治療の「夢を語ろう」	リウマチ治療の「夢を語ろう」 リウマチ・膠原病疾患における妊娠、出産の問題	植木 幸孝
		リウマチ・膠原病疾患における妊娠、出産の問題		一瀬 邦弘
2018年 8月25日	第3回長崎リウマチチーム医療ワークショップ			植木 幸孝
2018年 9月21日	JAK seminar in 佐世保			植木 幸孝
2018年 9月22日	第29回 西九州自己免疫疾患研究会			植木 幸孝
2018年 10月25日	佐世保リウマチ地域連携懇話会			植木 幸孝
2018年 10月26日	県北リウマチネットワーク研究会	EBMリウマチ診療 ～残りのピースを埋めていく～	昭和大学医学部 内科学講座 リウマチ・膠原病内科学部門 助教 高橋 良 先生	植木 幸孝
		トシリズマブが有効であった2型糖尿病合併キャスルマン病と高度肥満合併巨細胞性動脈炎症例の検討	昭和大学医学部 内科学講座 リウマチ・膠原病内科学部門 助教 高橋 良 先生	江口 勝美
2018年 11月9日	ADL&QOL Improvement Seminar	チーム医療から見たリウマチ患者の管理 ー薬剤師の立場からー	北海道内科リウマチ科病院 薬剤科 主任 野木山 ゆかり 先生	植木 幸孝
		関節エコーの実際	北海道内科リウマチ科病院 薬剤科 主任 野木山 ゆかり 先生	
		当院におけるソーシャルワーク支援の現状	北海道内科リウマチ科病院 地域連携室 河部 龍介 先生	
		関節リウマチ:こんな病気です	北海道内科リウマチ科病院 最高顧問 小池 隆夫 先生	
2018年 11月27日	循環型地域連携講演会	関節リウマチと大型血管炎の治療の進歩	江口 勝美	植木 幸孝
2018年 12月6日	県北IL-6研究会			植木 幸孝
2018年 12月9日	リウマチチーム・ワークショップサミット2018			植木 幸孝
2019年 2月22日	第5回 リウマチ治療セミナーin SASEBO			植木 幸孝
2019年 3月9~10日	第57回九州リウマチ学会	主題I-1 高齢者リウマチ性疾患の診断と治療1		植木 幸孝
		主題I-2 高齢者リウマチ性疾患の診断と治療2		一瀬 邦弘
		ポスターセッション6 P6-1~5 その他の炎症性疾患		荒牧 俊幸

論文・雑誌掲載

題 名	掲 載 誌	著 者
MicroRNA-204-3p inhibits lipopolysaccharide-induced cytokines in familial Mediterranean fever via the phosphoinositide 3-kinase γ pathway.	Rheumatology(Oxford). 2018 Apr 1;57(4):718-726.	Koga T, Migita K, Sato T, Sato S, Umeda M, Nonaka F, Fukui S, Kawashiri SY, <u>Iwanomo N</u> , <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, <u>Ueki Y</u> , Masumoto J, Agematsu K, Yachie A, Yoshiura KI, <u>Eguchi K</u> , Kawakami A.
Comparison of serum inflammatory cytokine concentrations familial Mediterranean fever and rheumatoid arthritis patients.	Scand J Rheumatol. 2018 Jul;47(4):331-333	Koga T, Kawashiri SY, Migita K, Sato S, Umeda M, Fukui S, Nishino A, Nonaka F, <u>Iwamoto N</u> , <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, <u>Ueki Y</u> , Masumoto J, Agematsu K, Yachie A, <u>Eguchi K</u> , Kawakami A.
Brief Report: Attenuated Effectiveness of Tumor Necrosis Factor Inhibitors for Anti-Human T Lymphotropic Virus Type I Antibody-Positive Rheumatoid Arthritis.	Arthritis Rheumatol. 2018 Jul;70(7)1014-1021.	Suzuki T, Fukui S, Umekita K, Miyamoto J, Umeda M, Nishino A, Okada A, Koga T, Kawashiri SY, <u>Iwamoto N</u> , <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Fujikawa K, <u>Aramaki T</u> , Mizokami A, Matsuoka N, <u>Ueki Y</u> , <u>Eguchi K</u> , Sato S, Hidaka T, Origuchi T, Okayama A, Kawakami A, Nakamura H.
Hepatitis B Virus reactivation in patients with rheumatoid arthritis: A single-center study.	Mod Rheumatol. 2018 Sep;28(5):808-813.	Matsuzaki T, <u>Eguchi K</u> , Nagao N, Tsuji S, <u>Aramaki T</u> , <u>Terada K</u> , Iwatsu S, Tokimura I, Kamo Y, Oda H, Kinoshita N, Miyaaki H, Taura N, <u>Ichikawa T</u> , Kawakami A, Nakao K, <u>Ueki Y</u> .
Denosumab is effective toward glucocorticoid-induced osteoporosis patients complicated with rheumatic diseases regardless of prior anti-osteoporotic drugs.	J Bone Miner Metab. 2018.Sep 5.	<u>Iwamoto N</u> , Okamoto M, Tsuji S, Endo Y, Takatani A, Shimizu T, Umeda M, Fukui S, Sumiyoshi R, Igata T, Koga T, Kawashiri SY, <u>Aramaki T</u> , <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, <u>Eguchi K</u> , <u>Ueki Y</u> , Kawakami A.
HLA-DQB1 DPB1 alleles in Japanese patients with adult-onset Still's disease.	Mod Rheumatol. 2018 Oct 18:1-5.	Fujita Y, Furukawa H, Asano T, Sato S, Yashiro Furuya M, Kobayashi H, Watanabe H, Suzuki E, Koga T, Shimizu T, <u>Ueki Y</u> , <u>Eguchi K</u> , Tsuchiya N, Kawakami A, Migita K.
Clinical predictors of inadequate response to conventional synthetic disease-modifying antirheumatic drugs (csDMARDs) including methotrexate(MTX) in untreated rheumatoid arthritis patients -A single-center observational study.	Mod Rheumatol. 2018 Nov 28:1-18.	<u>Aramaki T</u> , <u>Ueki Y</u> , <u>Kojima K</u> , <u>Kurushima S</u> , <u>Tsuji Y</u> , Kawachi N, <u>Iwamoto N</u> , <u>Ichinose K</u> , <u>Terada K</u> , <u>Eguchi K</u> , Kawakami A.

題 名	掲 載 誌	著 者
Serum amyloid A1 (SAA1) gene polymorphisms in Japanese patients with adult-onset Still's disease.	Medicine(Baltimore). 2018 Dec;97(49):e13394.	Yashiro M, Furukawa H, Asano T, Sato S, Kobayashi H, Watanabe H, Suzuki E, Nakamura T, Koga T, Shimizu T, Umeda M, Nonaka F, <u>Ueki Y</u> , <u>Eguchi K</u> , Kawakami A, Migita K.
Efficacy of inflixmab as a switched biologic in rheumatoid arthritis patients in daily clinical practice.	Immunol Med. 2018 Dec;41(4):181-186.	Umeda M, Koga T, <u>Ichinose K</u> , Takatani A, Igawa T, Shimizu T, Fukui S, Nishino A, Horai Y, Hirai Y, Kawashiri SY, <u>Iwamoto N</u> , Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, <u>Aramaki T</u> , <u>Ueki Y</u> , Okada A, Fujikawa K, Matsuoka N, Kawakami A.
Abatacept in combination with methotrexate in Japanese biologic-naive patients with active rheumatoid arthritis:a randomised placebo-controlled phase IV study	RMD Open. 2018 Dec 4;4(2):e000813.	Matsubara T, Inoue H, Nakajima T, Tanimura K, Sagawa A, Sato Y, Osano K, Nagano S, <u>Ueki Y</u> , Hanyu T, Hashizume K, Amano N, Tanaka Y, Takeuchi T.
関節リウマチにおけるACPAとNETosisの役割	九州リウマチ Vol.38(2),2018	<u>江口 勝美</u> <u>寺田 馨</u> <u>荒牧 俊幸</u> <u>植木 幸孝</u> <u>古賀 智裕</u>
メトトレキサート未治療早期関節リウマチ患者に対する予後不良因子の検討とセルトリズムブペゴルの有効性の検討:無作為化、プラセボ対照第三相、C-OPERA試験のサブグループ解析	臨床リウマチ Vol.30 89~97	田中 良哉 渥美 達也 山本 一彦 竹内 勤 山中 寿 石黒 直樹 <u>江口 勝美</u> 渡辺 彰 折笠 秀樹 小路 利治 P.Ralston 宮坂 信之 小池 隆夫

糖尿病センター

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2018年 5月24日~26日	第61回 日本糖尿病学会 年次学術集会	SGLT2阻害薬の有効性を高める対話法について	松本 一成
		当院における周術期管理の実態調査	明島 淳也
2018年 10月12日~13日	第56回 日本糖尿病学会 九州地方会	地域連携パス「佐世保ブルーサークル」	松本 一成
		当院の整形外科における血糖管理の実態調査	明島 淳也
		佐世保中央病院における65歳未満の2型糖尿病の外来患者の分析	笹村明香里

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	発 表 者
2018年 4月18日	伊万里有田地区糖尿病学術講演会	インスリン製剤の使い分け	松本 一成
2018年 5月12日	第3回 糖尿病と心を考える会	ホントのPatient Centered Approachを達成するためにー糖尿病コーチングー	松本 一成

会 期	講演会・セミナー名	演 題	発 表 者
2018年 5月18日	鹿児島 Coaching-Academy BASIC	Patient Centered Approach (患者中心の医療)を実現するために —糖尿病コーチング—	松本 一成
2018年 5月29日	第347回 県北臨床内科医会 学術講演会	当世糖尿病薬物療法事情 —その処方への根拠は何ですか?—	松本 一成
2018年 6月2日	患者さんがインスリン治療を 受け入れやすくなる対話術セミナー	Part1 コーチングについて Part2 コーチングコアスキルとは Part3 インスリンに関する医療面接の仕方	松本 一成
2018年 6月8日	チーム医療を考える糖尿病セミナー ～質の高い療養指導を目指して～	コーチングを用いた対話—糖尿病患者 さんが納得して服薬を開始する—	松本 一成
2018年 6月29日	鹿児島 Coaching-Academy ADVANCED	糖尿病コーチング② —タイプ分けを知ればうまくいく—	松本 一成
2018年 7月15日	第13回 日本臨床コーチング研究会	臨床コーチングの成果	松本 一成
2018年 8月24日	糖尿病看護の実務研修	メディカルサポートコーチング	松本 一成
2018年 9月2日	第28回 新潟糖尿病セミナー	コーチング理論に基づいた糖尿病療養指導 —患者さんが主体的になる教育入院—	松本 一成
2018年 9月4日	第36回 糖尿病診療を考える会	SMBGの利用法	明島 淳也
2018年 9月7日	第23回 愛媛糖尿病カンファレンス	糖尿病コーチング ～タイプ分けを知ればうまくいく～	松本 一成
2018年 9月21日	糖尿病コーチング講演会	患者さんのやる気を引き出す対話法 —糖尿病コーチング—	松本 一成
2018年 9月28日	患者さんが治療を受け入れやすくなる 対話術セミナー	患者さんのやる気を引き出す対話法	松本 一成
2018年 10月6日	第5回 日本糖尿病医療学学会	行動変容を支援したい人はコーチングを 学ぼう	松本 一成
2018年 10月19日	いちき串木野地区糖尿病学術講演会 第8回 一絆一糖尿病連携手帳を 広めるコメディカルの会	患者さんのやる気を引き出す対話法 —糖尿病コーチング—	松本 一成
2018年 11月3日	患者さんがインスリン治療を 受け入れやすくなる対話術セミナー	Part1 コーチングについて Part2 コーチングコアスキルとは Part3 インスリンに関する医療面接の仕方	松本 一成
2018年 11月29日	ヒューマログWebストリーミング講演会	継続期インスリン治療の最適化 ～"共感"の効果～	松本 一成
2018年 11月30日	第3回 糖尿病・肥満症治療セミナー	Opening Remarks	松本 一成
2019年 12月6日	第43回 県北医療薬学研究会	糖尿病診療 ～患者さんのためにできること～	明島 淳也
2018年 12月8日	第21回 大分糖尿地域医療フォーラム	佐世保ブルーサークルによる地域連携 への貢献について」	松本 一成
2018年 12月10日	第3回 生活習慣病を考える会	患者さんのやる気を引き出す対話法 —糖尿病コーチング—	松本 一成
2019年 1月24日	第3回 県北糖尿病地域連携懇話会	糖尿病治療としての行動療法 ～薬物療法を含めて～	松本 一成
2019年 2月8日	第137回 地域連携学術講演会	患者さんのやる気を引き出す対話法 —糖尿病コーチング—	松本 一成
2019年 2月9日	患者の行動変容にコミットセミナー	糖尿病診療に活かせるコーチング	松本 一成

消化器内視鏡センター

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2018年 11月9日～10日	第112回日本消化器病学会 九州支部例会 第106回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会	胆管切除術後に形成された縫合糸結石の一例	佐藤 航平
		肝脾硬度測定が有用であった特発性門脈圧亢進症の一例	松瀬 春奈
		糖尿病患者における膵臓癌早期発見の試み	松崎 寿久
2019年 1月12日	第324回日本内科学会 九州地方会	集学的治療が功を奏した成人横隔膜弛緩症の一例	高木 裕子

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2018年 9月4日	県北肝臓栄養療法セミナー	当院における慢性肝疾患患者の治療	吉村 映美
2018年 9月7日	第5回長崎胆・膵研究会	胆管空腸吻合術後肝内結石の一例	佐藤 航平
2019年 3月29日	LENVIMA Users Meeting in 長崎	肝細胞癌におけるレンバチニブの使用経験	木下 昇

座長

会 期	学会・講演会名	演 題	演 者	座 長
2018年 9月4日	県北肝臓栄養療法セミナー	肝硬変の自然経過と治療介入 ～握力測定ノススメ～	長崎医療センター 臨床研究 センター長 八橋 弘 先生	木下 昇
2018年 10月19日	中央フォーラム	当院における肝疾患治療	長崎大学病院 消化器内科 講師 宮明 寿光 先生	木下 昇
2018年 11月29日	佐世保肝炎撲滅を考える会	ウイルス肝炎治療のこれから	新小倉病院 肝臓病センター長 野村 秀幸 先生	木下 昇
2019年 3月12日	佐世保中央病院フォーラム	炎症性腸疾患診察のup to date	長崎大学大学院医歯薬学総合 研究科 消化器内科学分野 准教授 竹島 史直 先生	小田 英俊
2019年 3月16日	第6回長崎胆膵研究会	酸関連疾患の現状 ～GERDを中心に～	長崎医療センター 肝臓内科 医長 佐伯 哲 先生	木下 昇

論文・雑誌掲載

題 名	掲 載 誌	著 者
サイトメガロウイルス腸炎後に生じた大腸狭窄に対し内視鏡的バルーン拡張術を施行した一例	日本消化器内視鏡学会雑誌 Vol.60(6),Jun.2018	加茂 泰広 田島 和昌 小田 英俊 木下 昇 富永 雅也 山本美保子 米満 伸久 竹島 史直 中尾 一彦

循環器内科

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2018年 6月2日～3日	米国内科学会日本支部	「Spontaneous Isolated Superior Mesenteric Arterial Dissection Presenting Sudden Onset and Prolonged Epigastric Pain with Normal Laboratory Findings」	Satoshi Yoshimura, Tomoko Ochiai, Kojiro Nakao, Shinichiro Taniguchi, Yoshihisa Kizaki
		「Can oral vitamin B12 for pernicious anemia replace the conventional treatment?」	Hiromi Ichikawa, Satoshi Yoshimura, Yoshihisa Kizaki
2018年 8月2日～4日	第27回 日本心血管インターベンション 治療学会学術集会	「第1対角枝(高位側側弯)の完全閉塞で前乳頭筋 断裂を来たし急性僧帽弁閉鎖不全症に至った症例」	吉村 聡志 中尾功二郎 落合 朋子 木崎 嘉久 中路 俊 谷口真一郎
2018年 9月14日～15日	第27回 日本心血管インターベンション 治療学会 九州・沖縄地方会	「特発性冠動脈解離との鑑別が困難であった 若年女性の急性下壁心筋梗塞症例」	落合 朋子 吉村 聡志 中尾功二郎 木崎 嘉久
2018年 12月11日	第125回日本循環器学会 九州地方会	「難治性急性特発性心膜炎に対しステロイドパルス 療法が奏功した一症例」	市川 宏美 吉村 聡志 落合 朋子 中尾功二郎 木崎 嘉久 荒牧 俊幸
		「シルデナフィルをはじめとしたケアバンドル導入が 奏功した肺高血圧症を伴う気腫合併肺線維症の一例」	松本 学 吉村 聡志 落合 朋子 中尾功二郎 木崎 嘉久 副島 佳文 辻 良香
2018年 12月15日	第31回心臓性急死研究会	「ROSCまでに時間を要したが神経学的予後良好で あった拡張型心筋症の心室細動蘇生例」	吉村 聡志

講演会・勉強会・研究会

会 期	講演会・セミナー名	演 題	発 表 者
2018年 8月25日	佐世保中央病院 第49回地域共同学習会	「心不全ってなあに ～各施設で注意すべき症状など」	木崎 嘉久 船崎このみ 鬼崎 仁志 岩村 直矢
2018年 8月30日	第一三共社内研修会	「心不全ガイドラインと心不全パス」	木崎 嘉久
2018年 11月16日	プリストルマイヤーズスクイブ 社内研修会	「不整脈とその治療」	中尾功二郎
2018年 11月22日	バイエル薬品社内勉強会	「心房細動と抗凝固療法」	中尾功二郎
2019年 3月18日	県北循環器連携パスミーティング	「心不全地域連携 ～心不全ガイドラインと薬物治療～」	木崎 嘉久

座長

会期	学会・講演会名	演題	演者	座長
2018年 7月27日	第11回県北周術期管理懇話会	「長崎労災病院ICUにおける4年間の敗血症症例の検討」	長崎労災病院 救急科部長 救急集中治療科部長 中村 利秋 先生	木崎 嘉久
2018年 7月30日	佐世保中央病院 循環器疾患フォーラム	「循環器診療の最近の傾向～長崎県の心疾患救急医療体制の現状も含めて～」	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学 教授 前村 浩二 先生	木崎 嘉久
2018年 8月7日	循環器疾患研究会	「当院における心不全患者へのチームアプローチ」	福岡県済生会福岡総合病院 慢性心不全認定看護師 中原 さちこ 先生	木崎 嘉久
2018年 9月4日	SASEBO PCI Seminar	「冠動脈疾患の新しい診断技術」	和歌山県立医科大学 循環器内科 准教授 久保 隆史 先生	木崎 嘉久
2018年 9月8日	第6回長崎・鹿児島 PCIジョイントライブ			木崎 嘉久
2018年 10月28日	第4回日本心臓リハビリテーション学会九州支部地方会			木崎 嘉久
2018年 11月30日	第9回長崎県北肺高血圧症研究会	「肺高血圧症の最新の治療」	岡山医療センター 臨床研究部長兼循環器内科医長 松原 広己 先生	木崎 嘉久
2019年 1月25日	県北循環器連携パス学術講演会	「地域における医療連携構築～心不全治療の多職種連携と抗凝固療法～」	佐久総合病院佐久医療センター 副院長兼循環器内科部長 矢崎 善一 先生	木崎 嘉久

症例検討会・世話人会・コメンテーター

会期	検討会・世話人会	世話人 コメンテーター
2018年 7月2日	県北循環器連携パス世話人会	木崎 嘉久
2018年 7月3日	県北ハートカンファランス	
2018年 8月24日	県北メタボリックシンドローム研究会世話人会	木崎 嘉久
2018年 10月9日	県北ハートカンファランス	
2018年 10月29日	県北循環器連携パス世話人会	木崎 嘉久
2018年 11月23日	ARIA PCI Live9 Q-WINC-Non LMT Bifurcation-	落合 朋子
2018年 11月30日	第9回長崎県北肺高血圧症研究会世話人会	木崎 嘉久
2019年 2月28日	県北メタボリックシンドローム研究会世話人会	木崎 嘉久
2019年 3月9日	第13回長崎心臓リハビリテーション研究会世話人会	木崎 嘉久
2019年 3月13日	県北ハートカンファランス	
2019年 3月18日	県北循環器連携パス世話人会	木崎 嘉久

論文

日付	掲 載	論 文 名	著 者
2018年 9月10日	CMAJ 190(39):E1084 doi: 10.1503/ cmaj.180336	[Invasive pneumococcal infection in a man with hyposplenism]	Satoshi Yoshimumra, Han-Seung Yoon Sasebo Chuo Hospital, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Science

外 科

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2018年 4月5日～7日	第118回 日本外科学会 定期学術集会	【長大発表分】 上部消化管癌症例におけるInflammation-based prognostic scoresの比較検討	國崎 真己
2018年 10月27日	第34回 長崎肝・胆道・脾外科 研究会	脾退形成癌の1切除例	丸山圭三郎
2018年 11月1日～4日	第26回 日本消化器関連学会週間	胃癌切除症例における術前Inflammation-based prognostic scoresの有用性の検討	國崎 真己
会 期	学 会 名	演 題	発表者
2018年 11月22日～24日	第80回 日本臨床外科学会総会	腹腔鏡下胃全摘、噴門側胃切除術における 再建法に対する安全性と工夫	國崎 真己
		腹腔鏡補助下横隔膜縫縮術が奏功した 横隔膜弛緩症の1例	森 くるみ
2018年 12月6日～8日	第31回日本内視鏡外科学会総会	半腹臥位による胸腔鏡下食道憩室切除の1例	國崎 真己
		腹腔鏡下胃全摘術における再建法の工夫	森 くるみ
2019年 2月27日～3月1日	第91回 日本胃癌学会総会	腹腔鏡補助下胃全摘術後非閉塞性高度黄疸の1例	國崎 真己
2019年 3月7日～8日	第55回 日本腹部救急医学会総会	外傷性小腸腸間膜損傷に対する緊急手術後 5日目にS状結腸穿孔をきたした1例	丸山圭三郎

整形外科

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	発表者
2018年 7月21日	長崎運動器系疾患研究会	日常よくみられる膝の疾患の治療	北原 博之
2019年 2月21日	経過報告会	変形性膝関節症の再生医療	北原 博之

脳神経外科・脳血管内科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2018年 1月18日	第27回 日本脳神経血管内治療学会九州支部会	診断に苦慮した仙骨部硬膜外動静脈瘻の一例	堀尾 欣伸
2018年 2月13日	第66回 佐世保脳外科医会	Anterior condylar confluence近傍DAVFのTVE後に遅発性舌下神経麻痺を来した一例	竹本光一郎
2018年 3月10日	第128回日本脳神経外科学会九州地方会	外転神経麻痺を合併したくも膜下出血の1例	平尾 宜子
2018年 3月24日	第38回 長崎CT・MRI研究会	脳神経外科診療に役立つCT・MRI	堀尾 欣伸
2018年 4月21日	第4回Cerebrovascular Neurologist研究会	治療に難渋した脳底動脈閉塞の一例	佐原 範之
2018年 4月23日	第67回佐世保脳外科医会	血清FSH値の著明な高値を示した下垂体腺腫の1例	天本 宇昭
2018年 6月12日	第131回長崎県北神経懇話会	全身性エリテマトーデスに合併した可逆性脳血管攣縮症候群の1例	佐原 範之
2018年 6月16日	第129回日本脳神経外科学会九州地方会	血清FSH値の著明な高値を示した下垂体腺腫の1例	天本 宇昭
2018年 6月19日	第68回佐世保脳外科医会	治療に難渋した中大脳動脈閉塞の一例	佐原 範之
2018年 6月24日	佐世保市民講座	きちんと知ろう不整脈と脳卒中 ～不整脈が引き起こすノックアウト型脳梗塞～	佐原 範之
2018年 8月18日	第322回日本内科学会九州地方会(研修医松本先生)	強直性脊椎炎に合併した症候性内頸動脈狭窄の1例	佐原 範之
2018年 9月15日	第223回日本神経学会九州地方会	全身性エリテマトーデスに合併した可逆性脳血管攣縮症候群の1例	佐原 範之
2018年 11月6日	第69回佐世保脳外科医会	脳動静脈奇形に伴う破裂前脈絡叢動脈瘤に対してn-BCAで瘤内塞栓術を行った1例	吉永 貴哉
2018年 11月22日	第34回日本脳神経血管内治療学会	緊急血行再建後にMendelson症候群で死亡した1例	佐原 範之
2018年 11月22日	第34回日本脳神経血管内治療学会	診断に2度の血管撮影を要した仙骨部硬膜動静脈瘻の1例	天本 宇昭
2019年 1月12日	第29回 日本脳神経血管内治療学会九州支部会	破裂急性期にステント支援下コイル塞栓術を行ったBlister-like aneurysmの1例	天本 宇昭

論文

日付	掲載	論文名	著者
—	Surg Neurol Int 13(9): 135, 2018	Endovascular reconstruction for a kinked internal carotid artery after carotid endarterectomy	Horio Y, Takemoto K, Sakamoto S, Inoue T

心臓血管外科

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	演 者
2018年 4月12日~14日	The Heart Valve Society Annual 2018 Scientific Meeting	Microscopic Minimally Invasive Mitral Valve Surgery Via Right anterolateral mini- thoracotomy In Octogenarians	谷口真一郎
2018年 5月9日~11日	第46回 日本血管外科学会 学術総会	マルファン症候群患者に生じたB型大動脈解離に 対してTEVARを行った症例	中路 俊
2018年 10月25日~27日	第59回 日本脈管学会総会	無症候性脾動脈瘤に対する血管内治療の4例	谷口真一郎
2018年 11月28日~29日	第31回 日本外科感染症学会 総会学術集会	環境汚染が原因と考えられた心臓手術後のMRSA アウトブレイクの2事例	谷口真一郎
2019年 2月11日~13日	第49回 日本心臓血管外科学会 学術総会	腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術後の抑肝散 投与による謫妄予防効果の検討	谷口真一郎
2019年 3月16日	外科集団会	僧帽弁置換術後遠隔期の人工弁不全に対し、右小 開胸アプローチによる僧帽弁再置換術が有効で あった2例	村上 健

講演会・セミナー・世話人

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講師・座長・世話人
2018年 5月31日	第54回 県北臨床循環器懇話会 世話人会		谷口真一郎
2018年 6月24日	市民公開講座 テーマ「きちんと知ろう!不整脈と 脳卒中」	手術で治す不整脈	谷口真一郎
		手術で予防する脳梗塞	谷口真一郎
2018年 7月6日	佐世保中央病院フォーラム		谷口真一郎
2018年 7月26日	(株)大塚製薬工場 社内研修会		谷口真一郎
2018年 9月21日	佐世保中央病院フォーラム		谷口真一郎

小児科

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	演 者
2018年 4月15日	第204回日本小児科学会 長崎地方会	成人に達したてんかん患者の検討	犬塚 幹
2018年 4月20日~22日	第121回日本小児科学会 学術集会	小児肥満症の行動療法におけるコーチングの有用性	山田 克彦
		血管迷走神経性失神の臨床像および診断上の 問題点に関する検討	犬塚 幹
2018年 7月22日	第205回日本小児科学会 長崎地方会	血管迷走神経性失神35例の検討	犬塚 幹
2018年 10月25日~27日	第52回日本てんかん学会 学術集会	若年欠神てんかん3例の治療経過	犬塚 幹
2018年 12月16日	第206回日本小児科学会 長崎地方会	ティルト試験中に30秒間の心停止を来たした 血管迷走神経性失神の6歳女児例	犬塚 幹

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2018年 8月18日	てんかん市民公開講座	子どものてんかんについて	犬塚 幹
2018年 10月5日	長崎県学校保健総合支援事業 講演	質の良い睡眠について	犬塚 幹
2018年 10月16日	長崎県学校保健総合支援事業 講演	睡眠について、早寝の大切さ	犬塚 幹
2018年 11月12日	長崎県学校保健総合支援事業 講演	睡眠と脳・心身の健康	犬塚 幹
2018年 11月22日	佐世保市学校保健会養護教諭部会 分団研修会	起立性調節障害と早寝・早起きの話	犬塚 幹
2018年 12月10日	長崎県学校保健総合支援事業 講演	基本的生活習慣の定着を目指して	犬塚 幹
2018年 12月11日	長崎県学校保健総合支援事業 講演	食事と心身の健康～成長期に食事をしっかり摂ることの必要性を知る～	山田 克彦
2019年 1月18日	長崎県学校保健総合支援事業 講演	睡眠について	犬塚 幹

座長

会 期	講演会・セミナー名	演 題	演 者	座 長
2018年 5月10日	長崎県東北小児科医会 学術講演会	～自閉スペクトラム症・ADHDの 診断・対応・治療を中心に～	佐世保市こども発達センター 所長 迎 美由紀 先生	犬塚 幹
2018年 5月15日	Epilepsy symposium in 佐世保	～県北てんかん治療を考える～		犬塚 幹
2018年 6月14日	長崎県東北小児科医会 学術講演会	若年発症サルコイドーシスの 男児例	佐世保市総合医療センター 小児科 部長 角 至一郎 先生	山田 克彦
2018年 9月13日	長崎県東北小児科医会 学術講演会	小児における血管腫、母斑の治療	佐世保市総合医療センター 形成外科 部長 安楽 邦明 先生	山田 克彦
2018年 10月11日	長崎県東北小児科医会学術 講演会	なぜ、抗菌薬の適応使用が重要 なのか？ ～今からのシーズンに向けて～	長崎大学大学院医歯薬総合 研究科感染免疫学講座臨床 感染症学分野 教授 泉川 公一 先生	山田 克彦
2018年 12月13日	長崎県東北小児科医会学術 講演会	エンテロウイルスによる急性弛緩 性麻痺(AFP)について	長崎大学病院小児科 助教 里 龍晴 先生	山田 克彦
		神経発達症～幼児期の診たて・ モデルケースの具体的な紹介～	佐世保市こども発達センター 所長 迎 美由紀 先生	山田 克彦
2019年 2月14日	長崎県東北小児科医会学術 講演会	最新の新生児医療について	佐世保市総合医療センター 小児科 部長 角 至一郎 先生	山田 克彦

論文

日付	掲 載	論 文 名	著 者
—	脳と発達 2019;51:5-9.	小児の血管迷走神経性失神35例の検討.	犬塚 幹

放射線科

学会・研究会

会期	学会名	演題	演者
2018年 7月21日	第31回九州・中四国地区 ハイパーサーミア研究会	興味深い経過を辿った悪性腹膜中皮腫の2例	平尾 幸一

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2018年 7月7日	第7回九州大腸CTトレーニングセミナー	読影の実際 「術前に必要な血管と画像構築」	堀上 謙作

病理部

学会・研究会

会期	学会名	演題	演者
2018年 6月21日～23日	第107回日本病理学会 総会	「病理検体確認作業におけるウェアラブル カメラ・デジタルカメラ使用の試み」	片淵 直 丸田 秀夫 米満 伸久
2018年 10月27日	平成30年度 鹿児島県臨床 検査技師会 病理細胞部門研修会	「病理部門におけるISO 15189取得 から運用に関して」	片淵 直
2018年 12月7日～8日	第17回日本医療マネジメント 学会 九州・山口連合大会	「当院病理検査室における医療安全へ の取組み」	片淵 直 米満 伸久
2019年 2月11日	平成30年度 日臨技九州支部 臨床検査総合部門研修会	「病理部門における法改正への実際の 対応」	片淵 直

認知症疾患医療センター

学会・研究会

会期	学会名	演題	演者
2018年 9月22日 ～9月24日	第8回 日本認知症予防学会 学術集会	急性期病院におけるBPSD予防作戦(第3報) ～院内認知	日和田正俊

健康増進センター

座長

会期	講演会・セミナー名	演題	座長
2018年 8月30日～31日	第59回 日本人間ドック学会学術大会		中尾 治彦
2019年 3月2日～3日	第20回九州予防医学研究会学術記念大会	職域におけるがん検診の現状	中尾 治彦

研修医

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2018年 4月14日	医学生・研修医の日本内科学会 ことはじめ 2018京都	超高齢社会における「継続外来研修」の導入の提案	市川 宏美
2018年 4月14日	医学生・研修医の日本内科学会 ことはじめ 2018京都	亜広範型(submassive)の亜急性肺血栓塞栓症 (PE)に対し、外科的血栓除去術を行ったが 出血性肺水腫に至った症例	大和 慎治
2018年 6月2日～3日	ACP(米国内科学会)日本支部 年次総会2018	Can oral vitamin B12 for pernicious anemia replace the conventional treatment?	市川 宏美
2018年 6月21日～23日	第43回 日本外科系連合学会 学術集会	診断に苦慮したメッケル憩室を先進部とした 成人腸重積症の1例	市川 宏美
2018年 6月29日～30日	第80回 耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術講演会	【長大発表分】 視機能障害をきたした副鼻腔疾患2例	松瀬 春奈
2018年 8月18日	第322回 日本内科学会 九州地方会	強直性脊椎炎に合併した症候性内頸動脈狭窄の1例	松本 学
2018年 9月27日～28日	第54回 日本胆道学会学術集会	急性胆嚢炎～Surgical high risk症例に対する 恒久的経乳頭的ステント留置術の有用性の検討～	市川 宏美
2018年 10月5日～6日	第81回日本呼吸器学会・日本結核病 学会 日本サルコイドーシス/肉芽腫 性疾患学会九州支部秋季学術講演会	Uterine Lipoleiomyomaの多発肺転移が 原発巣術後に自然消退した1例	前田 賢吾
2018年 11月9日～10日	第112回日本消化器病学会 九州支部例会 第106回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会	肝脾硬度測定が有用であった特発性門脈圧亢進症 の1例	松瀬 春奈
2018年 11月18日	第323回 日本内科学会 九州地方会	発病早期より経過を追えたGoodpasture症候群の 1例	平 鴻
2018年 12月1日	第125回 日本循環器学会 九州地方会	難治性急性特発性心膜炎に対しステロイドパルス 療法が奏功した1症例	市川 宏美
2018年 12月1日	第125回 日本循環器学会 九州地方会	シルデナフィルをはじめとしたケアバンドル導入が 奏功した肺高血圧症を伴う気腫合併肺線維症の1例	松本 学